

國學院大學経済学部

令和 8 年度開講

「演習 I」(ゼミ)

募集要項

INDEX

1. ゼミナールに入ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2. 演習別コース選択一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
3. 教員の連絡先一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
4. 過去 3 年間の 1 次選考応募実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
5. 募集ゼミ内容紹介 (教員氏名 50 音順)・・・・・・・・・・・・9

1. ゼミナールに入ろう

経済学部 教務部委員

木村 秀史

この募集要項では各ゼミの活動内容や特徴を紹介します。きっと皆さんが学びたい分野のゼミが見つかると思います。みなさんがこの要項を熟読のうえ、自分に最もマッチしたゼミについてよく研究し、ひとりでも多くの学生が応募・合格してくれることを期待しています。

(1) ゼミとは？

ゼミナール（ゼミ）は大学で専門的に学んでいく上で、また自分にあった学修を行う上で、講義とは異なる少人数かつ双方向の教育が受けられる演習形式の授業であり、重要かつ貴重な学びの機会です。また、学生同士だけでなく学生と教員がコミュニケーションを取りながら一緒に作り上げる最も大学らしい場所です。私たちはひとりでも多くの学生に自分に相応しいゼミに入り、ゼミの仲間や教員と大いに議論・討論してほしいと切に願います。自分の意見や考えを発表したり、多様な意見や価値観を聴いたり討論することはみなさんの学びをより深いものとし、就職活動（面接だけでなく集団討論のときも）やその後の職業生活にも大いに役立つことでしょう。みなさんが積極的かつ意欲的にゼミに応募することを期待しています。

後述するように、ゼミの開講パターン、学生数や活動内容は様々ですが、一般的にゼミの特徴は次のように説明できます。

- ① 講義形式ではなく、**学生と教員が話し合いながら一緒になって内容をつくりあげる少人数の演習系科目（専門応用科目）**です。ゼミによって1学年の人数がまちまちですし、他学年と合同で実施するゼミと学年ごとに実施するゼミがあります。
- ② ゼミの内容は各ゼミによって異なりますが、主な内容としては、(1)テキストを決めレジュメを作成して分担報告しながら精読する輪読、(2)学外のビジネスコンテストなど各種コンテストへの参加・発表、(3)テーマを決め、個人あるいはグループで研究する論文作成、(4)グループディスカッションやプレゼンテーション、(5)ディベート大会、(6)サマーセッションやスプリングセッションの合宿、(7)ゼミ成果発表会や合同ゼミなど学部ゼミ間の交流、(8)新歓・暑気払い・忘年会などのコンパ、(9)工場見学や企業見学、(10)OB・OG会などがあります。ゼミによって多彩ですので興味のあるゼミの活動をよく調べてください。
- ③ 講義科目とは異なり、ゼミでは学生同士および学生と教員の間での双方向のコミュニケーションが広く深く行われます。
- ④ ゼミに入るためには、ゼミ毎に行われる選考で合格しなければなりません。合格すれば「演習Ⅰ」からゼミに所属することになります（3年次3月募集のゼミを除く）。ただし、**一度希望するゼミに合格したら、合格を辞退したり、別のゼミに応募し直すことはできません。また、原則として、所属ゼミを変更することもできません。**（例えば、ゼミに合格して2年生後期からゼミ（演習Ⅰ）を履修し、「演習Ⅰ」の単位を修得している場合には、3年次3

月募集を実施しているゼミに入り直したいと思っても、原則として、他の演習に応募したり入り直したりすることはできません。)

(2) 開講形態

ゼミは2年後期からはじまります。原則として、すべてのゼミについて、卒業までに以下に挙げる5つの科目が開講されます。

- ①「演習Ⅰ」(2年次後期)
- ②「演習ⅡA」(3年次前期)
- ③「演習ⅡB」(3年次後期)
- ④「演習Ⅲ(卒業論文)A」(4年次前期)
- ⑤「演習Ⅲ(卒業論文)B」(4年次後期)

卒業要件に含まれる単位数は、すべてのゼミで「10単位」となります(これ以上の単位は卒業要件の単位には含まれません)。

また、すべてのゼミで「卒業論文が必修」です。

ゼミによって、上記の科目とセットで開講されるサマーセミナー、スプリングセミナーがあります。サマーセッション、スプリングセッションの開催有無については、それぞれのゼミの紹介ページの冒頭部分に明記されています。

なお、上記科目は自動登録されます。学生の都合で登録を取り消すことはできず、合宿に参加しなかったりゼミ論文を提出しなかったりした場合はDまたはRの評価となります。

| 通常 | 演習Ⅰ | 演習ⅡA | 演習ⅡB | 演習Ⅲ (卒業論文)A | 演習Ⅲ (卒業論文)B |
|------|------|------|------|----------------|----------------|
| 開講時期 | 2年後期 | 3年前期 | 3年後期 | 4年前期 | 4年後期 |
| 単位 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |

(3) ゼミの選び方

ゼミによって活動内容や開講形態は様々ですから、ゼミの課題や学習内容、ゼミ(先生)とのかわり方、つきあい方も変わってきます。各ゼミの内容や特徴をよく理解し、自分にあったゼミを選ぶことが大切です。その際、次の点を考慮しましょう。

- ① 自分の勉強したい「テーマ/分野（興味・関心）」に合致しているか考えましょう。ゼミのテーマ、教員の専攻/研究分野が自分にあっているかどうかは最も大切なことです。
- ② ゼミの活動内容をできる限り詳しく知って選びましょう。公開ゼミやゼミ個別ブース相談会（主催：学生委員会）を積極的に活用しましょう。
- ③ 前述したように、サマーセッション、スプリングセッションを行うゼミや行わないゼミがありますので、この点も考慮してください。
- ④ 担当教員とのコミュニケーションは、大学で学ぶ上でも学生生活や将来を考える上でも、みなさんにとって貴重な機会となるでしょう。2年半の間、一緒に勉強する教員についてもできる限り情報を集め、ゼミ選考の参考にしましょう。教員については、國學院大學 HP の経済学部のサイトにある「専任教員の紹介」でも知ることができます。

(4) 応募にあたっての注意

- ① みなさんがゼミに応募できるのは2年次の5月～7月の募集期間です（3年次4月開講のゼミを除く）。この間に1次、2次と計2回の選考が実施されます。ただし、**2次選考は、募集するゼミが限定されるので注意してください**。1次選考から積極的に応募するようにしましょう。
- ② **各ゼミで受け入れる学科・コースが指定**されています。多くのゼミが経済学科、経営学科どちらの学生も受け入れが可能となっていますが、少数ですが、経済学科の学生のみ、または経営学科の学生のみ受入可の演習もありますので注意してください。
- ③ 各ゼミで「**ゼミ指定必須科目**」、「**履修することが望ましい科目**」が記載されています。「ゼミ指定必須科目」は、ゼミごとに指定する必須科目です。その科目を履修し修得することが必須になります（入ゼミ時点で開講していない場合は入ゼミ後に履修）。「履修しておくことが望ましい科目」は、その科目を履修し修得することを推奨する科目になります。
- ④ 「**演習Ⅱ**」から参加できる**3月募集**もあります。2年次3月ごろに募集・選考があり、「演習Ⅰ」の単位を修得していない学生は応募できますが、ごくわずかなゼミしか募集しません（新しく着任する先生、派遣研究から戻る先生、追加募集を行う先生のゼミなど）。ですから、「演習Ⅰ」の1次選考から積極的に応募するようにしましょう。
- ⑤ **ゼミの選抜に合格した後で、合格を辞退することはできません**。1つのゼミに合格すると、他のゼミの2次選考に応募できませんので、よく考えて応募しましょう。
- ⑥ 合格した時点で「演習Ⅰ」（サマーセミナー、スプリングセミナーを開講するゼミについてはそれらの科目も含む）が**自動的に履修登録**されます。また、2年次の履修単位制限（42単位）にも含まれますので注意しましょう。
- ⑦ ゼミは、2年半にわたり続く活動です。**入ゼミ後も、ゼミの学びの内容に関することや、その他で困っていることがあれば、教員や教務課に相談するようにしてください**。

(5) その他

ゼミ（演習）を履修しない場合は、4年次の後期に開講される「卒業レポート演習」を履修し修得することが必須となります。卒業レポート演習では「卒業レポート（論文）」の提出が必須になりますが、教員を選ぶことはできません。**卒業論文の継続的な指導が期待できることから、ゼミ（演習）に入ることを強く推奨**します。

(6) よくある質問Q&A

■2年次の“留年”に関して

Q: 2年次に進級制限のため留年してしまいました。ゼミの扱いはどうなりますか。

A: ①1回目の2年次に「演習Ⅰ」の単位を修得しなかった(履修しなかった)場合、2回目の2年次に、もう一度、「演習Ⅰ」の1次選考から応募できます。

②1回目の2年次に「演習Ⅰ」の単位を修得した場合、3年生に進級した年度に「演習Ⅰ」と同じゼミの「演習ⅡA・B」が登録されます。

■ゼミ所属前(2年次前期から)の“留学”について

Q: 2年前期から(半年間または1年間)留学(セメスター留学・休学留学)したいのですが、「演習Ⅰ」に応募できますか。

A: 以下A) B) C) の条件すべてを満たした場合は応募できます。

A) 「演習Ⅰ」が開講される後期には留学先から戻っており、出席できること。

B) 期日(前年度の1月31日)までに所定の書類を経済学部教務委員会に申請し、経済学部教務委員会が「留学」を認めたものであること。

C) ゼミ応募条件の課題とは別に、面接に相当するレポートを経済学部教務委員会経由でゼミ指導教員に提出すること。

※該当する場合は、所定の手続きがありますので、教務課まで必ず申し出てください。

※なお、2年次に1年間留学(休学留学)すると3年次に進級できないため、翌年に「演習Ⅰ」の応募をすることになります。

■2年次後期からの“留学”について

Q: 2年後期から留学したいのですが、2年前期の選考で合格したあとで後期に留学し、3年次の「演習ⅡA」からゼミに入れますか。

A: 以下に該当する場合は可能です。

2年後期に半期の「セメスター留学」「認定留学」「協定留学」に行くことが決定している場合と、それ以外の留学のうち経済学部教務委員会が「留学」と認めた場合(休学留学)は、今回の選考を受けて合格すれば、例外的に3年次4月に開講する「演習ⅡA」から履修できます。ただし、「演習ⅡA」授業開始時までには留学先から戻っていなければなりません。このようなケースに該当する場合は、必ず事前に教務課に申し出てください。また、ゼミの選考の際には留学のことを必ず先生に伝えてください。

※なお、上記の手続きをせずに留学した場合は、学年を問わず「演習」を継続することはできず、4年次後期の「卒業レポート演習」を履修することになります。

■2年次後期からの“休学”について

Q: 2年後期から留学ではない理由によって休学した場合、合格したゼミを続けることはできますか？

A: できません。演習Ⅰは未履修の扱いとなって進級するので継続することはできません。ただし、この場合は、3月募集で応募のあるゼミの選考を受けて合格すれば、演習ⅡAから参加することができます。

■3年次以降の“留学”や“休学”について

Q: 3年次以降に半年間の留学や休学をする場合、ゼミの取り扱いはどうなりますか？

A: 原則として、復学した時点で、受講できなかった演習科目を「同時履修」してもらいます。例えば、3年次の後期に半年間の留学に行った場合、復学後の4年次前期に演習ⅢAと受講できなかった演習ⅡBの2コマを受講することになります。

Q: 3年次以降に1年間の留学や休学をする場合、ゼミの取り扱いはどうなりますか？

A: 協定留学などの制度上の留学の場合は、原則として、復学した後に受講できなかった2コマを通常の演習科目と「同時履修」することになります。1年間の休学の場合は復学した時点で進級はせず、同じ学年を繰り返すことになるので、そのまま演習を継続することが可能です（ただし1つ下の学年のゼミに参加することになります）。

※原則として、上記の取り扱いになりますが、個別の事情毎に様々なケースが考えられるので、留学や休学する場合は必ず教務課に相談してください。

※なお、上記以外で手続きをせずに留学した際は、学年を問わず「演習」を継続することはできず、4年次後期の「卒業リポート演習」を履修することになります。

2. 演習別「コース選択」一覧

| | 経済学科 | | | | | 経営学科 | | | 指定なし |
|-------|-----------------------|------------|-------------|-------------|--------------------|---------------------|-----------------------|----------------------|------|
| | 経済理論 とデータ 分析コース | 経済史 コース | 地域経済 コース | 日本経済 コース | グローバル 経済 コース | ビジネス リーダー コース | ビジネス クリエイ ターコース | ビジネス アナリス トコース | |
| 大西祥恵 | | | | | | | | | ○ |
| 小木曾道夫 | | | | | | | | | ○ |
| 尾近裕幸 | | | | | | | | | ○ |
| 尾崎麻弥子 | | | | | | | | | ○ |
| 尾田基 | | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 小野正人 | | | | | | | | | ○ |
| 木村秀史 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 齊藤誠 | | | | | | | | | ○ |
| 櫻井潤 | | | ○ | ○ | | ○ | | | |
| 東海林孝一 | | | | | | | | | ○ |
| 杉山里枝 | | | | | | | | | ○ |
| 鈴木智之 | | | | | | | | | ○ |
| 高木康順 | | | | | | | | | ○ |
| 高橋克秀 | | | | | | | | | ○ |
| 田原裕子 | | | | | | | | | ○ |
| 中馬祥子 | | | | | | | | | ○ |
| 手塚貞治 | | | | | | | | | ○ |
| 中田有祐 | ○ | | | | | ○ | | ○ | |
| 根岸毅宏 | | | ○ | ○ | | ○ | | | |
| 芳賀英明 | ○ | | | | | ○ | ○ | | |
| 濱田高彰 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| 林行成 | | | | | | | | | ○ |
| 藤山圭 | ○ | | | | | | ○ | ○ | |
| 星野広和 | | | | | | | | | ○ |
| 細井長 | | | | | ○ | ○ | | | |
| 細谷圭 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| 堀江優希 | | | | | | | | | ○ |
| 水無田気流 | | | | | | | | | ○ |
| 宮下雄治 | | | | | | | | | ○ |
| 山本健太 | | | ○ | ○ | | ○ | | | |
| 吉野真治 | ○ | | | | | ○ | | ○ | |

3. 教員の連絡先一覧

| 教員名 | メールアドレス※ |
|--------|-------------------------------------|
| 大西 祥恵 | yoshie-o_at_kokugakuin.ac.jp |
| 小木曾 道夫 | ogiso_at_kokugakuin.ac.jp |
| 尾近 裕幸 | okon_at_kokugakuin.ac.jp |
| 尾崎 麻弥子 | mayaozaki_at_kokugakuin.ac.jp |
| 尾田 基 | hoda_at_kokugakuin.ac.jp |
| 小野 正人 | masaono_at_kokugakuin.ac.jp |
| 木村 秀史 | s-kimura_at_kokugakuin.ac.jp |
| 齊藤 誠 | makotosaito_at_kokugakuin.ac.jp |
| 櫻井 潤 | jsakurai_at_kokugakuin.ac.jp |
| 東海林 孝一 | shoji_at_kokugakuin.ac.jp |
| 杉山 里枝 | rishii_at_kokugakuin.ac.jp |
| 鈴木 智之 | suz_at_kokugakuin.ac.jp |
| 高木 康順 | takagi_at_kokugakuin.ac.jp |
| 高橋 克秀 | taka8664_at_kokugakuin.ac.jp |
| 田原 裕子 | ytahara_at_kokugakuin.ac.jp |
| 中馬 祥子 | chuma_at_kokugakuin.ac.jp |
| 手塚 貞治 | tezuka.sadaharu_at_kokugakuin.ac.jp |
| 中田 有祐 | nakata_yusuke_at_kokugakuin.ac.jp |
| 根岸 毅宏 | negishi_at_kokugakuin.ac.jp |
| 芳賀 英明 | hhaga_at_kokugakuin.ac.jp |
| 濱田 高彰 | hamada_at_kokugakuin.ac.jp |
| 林 行成 | y-hayashi_at_kokugakuin.ac.jp |
| 藤山 圭 | k.fujiyama_at_kokugakuin.ac.jp |
| 星野 広和 | hoshino-h_at_kokugakuin.ac.jp |
| 細井 長 | hosonaga_at_kokugakuin.ac.jp |
| 細谷 圭 | khosoya_at_kokugakuin.ac.jp |
| 堀江 優希 | y_horie_at_kokugakuin.ac.jp |
| 水無田 気流 | kiruminashita_at_kokugakuin.ac.jp |
| 宮下 雄治 | y.miyashita_at_kokugakuin.ac.jp |
| 山本 健太 | kenta_at_kokugakuin.ac.jp |
| 吉野 真治 | yoshino_at_kokugakuin.ac.jp |

※_at_は「@」に置き換えてください。また、教員にメールを送る際は、大学のメールアドレス (@kokugakuin.ac.jp) を使用し、メールの件名に以下のように記載してください(不備の場合は、選考除外の可能性あります。)。

件名：「ゼミ応募書類 学籍番号 氏名」

4. 過去3年間の1次選考応募実績

| | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|--------|-------|-------|-------|
| 大西 祥恵 | 2 | 3 | 2 |
| 小木曽 道夫 | 15 | 12 | 14 |
| 尾近 裕幸 | - | 0 | 1 |
| 尾崎 麻弥子 | 18 | 13 | 23 |
| 尾田 基 | - | - | 0 |
| 小野 正人 | 16 | 10 | 31 |
| 木村 秀史 | - | 0 | 18 |
| 齊藤 誠 | - | - | 2 |
| 櫻井 潤 | 60 | 40 | 30 |
| 東海林 孝一 | 13 | 12 | 9 |
| 杉山 里枝 | 53 | 63 | 28 |
| 鈴木 智之 | - | - | 18 |
| 高木 康順 | 3 | 3 | 1 |
| 高橋 克秀 | 1 | 7 | 4 |
| 田原 裕子 | 7 | 5 | 6 |
| 中馬 祥子 | 10 | 13 | 8 |
| 手塚 貞治 | 21 | 49 | 20 |
| 中田 有祐 | 31 | 33 | 34 |
| 根岸 毅宏 | 6 | 27 | 20 |
| 芳賀 英明 | 55 | 50 | 46 |
| 濱田 高彰 | - | 12 | 60 |
| 林 行成 | - | 5 | 5 |
| 藤山 圭 | 6 | 7 | 1 |
| 星野 広和 | 33 | 29 | 34 |
| 細井 長 | 5 | 1 | 3 |
| 細谷 圭 | 7 | 5 | 3 |
| 堀江 優希 | - | - | - |
| 水無田 気流 | 17 | 8 | 2 |
| 宮下 雄治 | 41 | 46 | 42 |
| 山本 健太 | 8 | 1 | 2 |
| 吉野 真治 | - | - | 10 |

5. 募集ゼミ内容紹介

大西 祥恵ゼミ

- ・選考で重視する項目

社会におけるさまざまな課題への問題意識、ゼミ選考への準備を丁寧にしっかりと行っているかどうか、ゼミでの学びに対する真面目な姿勢を有しているかどうか、これまでの成績評価。

- ・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | | | |

- ・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|------------|-----------------|----------------|
| 基礎演習 A | 基礎演習 B | 社会政策論 (入ゼミ後) | 労働経済 (入ゼミ後) |
| 日本の経済 | コンピュータと情報Ⅰ | | |

- ・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 3年(男) | 12人 | 3年(女) | 2人 | 4年(男) | 7人 | 4年(女) | 3人 |
|-------|-----|-------|----|-------|----|-------|----|

- ・教員からの説明

(1) テーマ

「労働市場において不利な立場にある人々の実態とそれに関連する社会政策」

このゼミでは、労働市場において不利な立場にある人々に焦点をあて、日本社会や労働市場の構造について考えていきます。不利な立場にある人々の視点から日本社会や労働市場をとらえることによって、ふだん見過ごされてしまいがちなさまざまな課題が見えてきます。それらの課題を解決するた

めの社会政策を検討することで、日本社会全体をよくするためには何が重要なのかについて議論していければと思います。

(2) キーワード

「労働」、「失業」、「社会政策」、「貧困」、「社会的排除」、「マイノリティ」

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

ゼミへ応募をされる場合、原則として以下に書かれているゼミでの学修に参加することに合意したものとみなします。合意されない場合、ゼミへの応募はできません。ゼミで勉強のために実施される取り組みには、原則参加できることも応募の条件とします。

勉強以外にも大切なことはありますが、とはいえ勉強も大切ですので、ゼミでの学修を希望されるのであれば、勉強に対して真摯に取り組むとともに、しっかりと時間をさいていただく必要があります。

「講義型科目の履修」

教員が担当している講義型の科目で議論されることは、ゼミでの学びと深い関係があります。そのため、「社会政策論」、「労働経済」は履修してください。

「演習Ⅰ」(2年生後期)

文献などの課題をゼミ生で分担して報告してもらい、それを受けてのディスカッションを行います。また、ゼミ成果発表会に参加し、グループでの共同研究を行っています。ゼミでは、一人ではできない学びをしていただきます。ゼミ生同士でディスカッションを行うことで、そのメンバーでの議論だったからこそ行き着ける結論を見出していきます。学年末には、ゼミでの勉強を通して自身のテーマを決め、それについて調べたことをレポートにして提出してもらいます。

「合宿」(3年生の夏休みを予定、サマセではありません)

合宿という形で、学外に学びに出ます。そこで学んだことを振り返って、その後の研究に活かしてもらいます。これまで被災地での震災復興について学んだり、大阪で寄せ場や被差別部落でのフィールドワークを行ったり、群馬県の富岡製糸場(世界遺産)に行き戦前の工場労働について考えたりしました(事情によって春休みに行った年度もあります)。

「演習ⅡA・B」(3年生)

自身のテーマについての個別研究を進めてもらい、ゼミで報告してもらいます。そしてどういう問いを立てて研究を深めていけばいいのかについて、先行研究に学びながら絞り込んでいきます。それらの研究成果をレポートにして、提出してもらいます。また、社会の現実について学ぶために、フィールド・ワークを行うこともあります。これまでには、川崎市ふれあい館にて在日コリアンの方々やニューカマーの子どもたちを取り巻く現状、さいたま市障害者総合支援センターで障害者雇用の実態、埼玉県狭山市にて部落差別を悪用したえん罪事件についての学習を行ったりしました。

「演習ⅢA・B」(4年生)

自身の問いに対して、論証の方法を考え結論を導き出していくよう、さらに検討を加えていきます。そしてそれを卒業論文にまとめていきます。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

提出締切：1月下旬、2年後期「演習Ⅰ」2000字以上、3年後期「演習ⅡB」4000字以上

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

先輩たちの就職先としてIT関係、流通、運輸、建設、不動産、販売、保険、メーカー、公的法人、公務員などがあります。とくに傾向があるわけではありませんが、それぞれに自身の将来のことを真剣に考えて進路を決定していきました。就職にかんしては、実際に働いてみないとわからないことがあることをわかったうえで、大学を卒業する時点で自身はどうしていきたいのかを考える必要があります。そのためまずは自身についてできるだけ客観的にとらえることと、社会にはどのような活躍の場があるのかをしっかりと学ぶのが大事なように思います。

(6) 教員について(自己紹介等)

大学生のころからの自分の生活する社会はどんなところなのかを詳しく知りたいという気持ちが原動力となって、研究を続けています。労働市場において不利な立場にある人々にかかわることで、これまで気づけなかったさまざまな課題の存在を知ることになり、夢中で取り組んできて現在に至りました。いろいろな現場におうかがいしてきましたが、とりわけ被差別部落の方々や寄せ場の日雇い労働者の方々には多くのことを学ばせていただきました。



小木曾 道夫ゼミ

・選考で重視する項目

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 無 | 無 | 無 | 無 | 無 |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--|-----------------|--|
| | | | |
| | | | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|
| 3年(男) | 17人 | 3年(女) | 0人 | 4年(男) | 11人 | 4年(女) | 3人 |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ

組織と集合行動の自己生産

(2) キーワード

組織、集合行動、自己生産

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

2年後期の「演習Ⅰ」では、バーナード著 山本安次郎・田杉競・飯野春樹訳(1968)『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社、の、のちの組織研究に影響を与えた部分を選んでの精読する文献購読演習を行う。つまり、「演習Ⅰ」と言っても現行のカリキュラムには無い「基礎演習C」のような内容である。「演習Ⅰ」の到達目標は文献購読報告ができ、文献購読レポートが書けるようになること。単位修得の要件には、報告およびレポートで他者が著作権を持つ文字列を引用できること、報告および

びレポートの巻末の参考文献リストで、1.著作権者・2.刊行年・3.書名・4.出版社を正確に記述できることを含む。

3年の「演習ⅡA・B」と4年の「演習ⅢA・B」では各自研究テーマを決めて、研究課題は、(外部の組織から受動的に与えられるのではなく、)ゲーム以外のテーマから受講者が自ら能動的に決定して、研究演習を行う。「演習ⅡA・B」の到達目標は研究報告ができ研究論文が書けるようになることで、「演習ⅢA・B」の到達目標は、社会科学の研究論文が書けるようになること。単位修得の要件には、報告およびレポートの巻末の参考文献リストで、1.著作権者・2.刊行 or 更新年(月日)・3.書名 or タイトル・4.出版社 or URL を正確に記述できること、および、報告およびレポートで、5.自分の意見や考え・または・著作権者を特定できない情報と、他者が著作権を持つ情報とを区別し、6.他者が著作権を持つ情報の出典を引用または参照という方法で巻末の参考文献リストと照合して明記すること、を含む。

3年の「演習ⅡA・B」は、まず、報告者が各自が決めた研究テーマに基づく報告をして、質疑応答に引き続き、4人程度のグループで今後の報告者の研究の参考になりそうな点についてブレインストーミングを行う、という内容です。前期の「演習ⅡA」は各自の問題意識について報告する段階です。

(4) 卒業論文以外で論文などを課す場合の詳細(枚数や時期など)

「演習Ⅰ」では学期末締切で字数自由の文献購読レポート

「演習ⅡA・B」と「演習ⅢA」では学期末末締切の研究レポートを課し、字数のペース配分目標は「演習ⅡA」が4000字、「演習ⅡB」が8000字とする。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

業種の傾向はありません。過去、北関東地域の実家から通勤可能な勤務地限定の職掌への就職希望者は100%就職が決まっています。

(6) 教員について(自己紹介等)

<http://www2.kokugakuin.ac.jp/~ogiso/index.html>教員について

小木曾はゲームとギャンブルについて無知であるため、ゲームまたはギャンブルを研究テーマとしたい学生に対して、十分な論文指導ができません。

(7) その他

小木曾ゼミは、研究成果であるゼミ卒業論文の質を分子、(ともに実施しないゼミ合宿とサブゼミを含む)拘束時間を分母とする、研究成果労働生産性が高いゼミです。過去の4年生のゼミ卒業論文・ゼミ論などは<https://www2.kokugakuin.ac.jp/~ogiso/semi/index.html>ゼミHPを参照してください。

なお、経済学会学生委員の立候補者がいなかったため、学生委員会主催の「演習Ⅰ」募集には参加していません。

小木曾は2027年度が国内派遣研究の予定ですが、「演習ⅡA・B」を担当します。

尾近裕幸 ゼミ

- ・選考で重視する項目

礼儀と学び続ける覚悟

- ・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | | | |

- ・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--------|-----------------|---------|
| 日本の経済 | 経済理論入門 | ミクロ経済Ⅱ | マクロ経済Ⅱ |
| ミクロ経済Ⅰ | マクロ経済Ⅰ | 現代日本経済 | 日本経済と政策 |

- ・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 3年(男) | 2人 | 3年(女) | 2人 | 4年(男) | 6人 | 4年(女) | 0人 |
|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|

- ・教員からの説明

(1) テーマ

演習Ⅰのシラバスを参照してください。

(2) キーワード

アダム・スミス、『国富論』

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

シラバスの「講義計画」を参照してください。

3年次前期は、以下の本を熟読しながらミクロ経済学を学びます。

神取道宏 『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年

3年次後期以降は、受講生と相談の上で学習する本を決定します。

なお、研究論文はLaTeXを使って作成しますので、水谷正大『LATEX 超入門』（講談社ブルーバックス、2020年）等を各自で学習してもらいます（難しいものではありません）。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

3年次および4年次に研究論文を作成します。3年次および4年次に、受講生が提出した研究論文を集めた論文集を作成します。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

様々な業種・職種の企業に就職しています。大学院に進学した人もいます。

(6) 教員について(自己紹介等)

今年度は「経済理論入門」「日本の経済」「マイクロ経済 I」「マイクロ経済 II」の科目を担当しています。

(7) その他

人として常識ある行動ができ、礼儀正しく、思いやりがあり、快活明朗で、真摯に学び続けながら自分自身を成長させたいと考えている学生を希望します。

・選考で重視する項目

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ サブセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ サブセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--------|-----------------|--|
| 日本の経済 | 基礎演習 A | 経済史入門 | |
| | | | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|
| 3年(男) | 14人 | 3年(女) | 3人 | 4年(男) | 13人 | 4年(女) | 3人 |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ

西洋（ヨーロッパ、アメリカ）の広い意味での経済（経済活動にまつることすべて。生産・流通・消費）から歴史的な視点で我々の今の生活を見直す。

(2) キーワード

ヨーロッパ、アメリカ、歴史、世界、経済

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

はじめに各人が興味のあるテーマを事前に考えてもらいます（仮というか何となくの関心で構いません）。テーマ自体は歴史的なものでも現代のものでも構いませんが、現代のものを選んだ方もできるだけ歴史的な視点から見るようにということを考えてください。調べる熱意があれば特に詳しい知識は必要ありませんが、日本史・世界史のかなりおおまかな流れは頭に入っていたほうが良いです。2年時にはそれに関するディベート、ディスカッションをおこない、並行して卒論に関する説明と注意点について話し合い、論文の書き方について勉強します。3年時にはそのテーマについてさらに討論し、夏休み前から本格的に卒論執筆に入ってもらいます。3年生でほぼ卒論完成とい

う状態にしておいて、4年生の就職活動に臨んでください（面接などで役に立ちます）。下の学年のゼミにも参加してもらうことがあるので、来年度以降のことですが、ゼミの曜日には後ろにアルバイトなどを入れないようにしてください。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

卒業論文の準備として3年生である程度の形を決めてもらいます。4年の前半は就職活動で頭がいっぱいになるので、むしろ3年生のうちに書き上げるくらいの勢いで準備します。本来経済史とは歴史的な一次史料を使用して研究をするものですが、日本でそれをやるのは大変難しいので、基本的には文献やインターネットから拾えるデータなどを利用することになります。テーマは基本的には欧米の歴史（20世紀などの近い歴史でもOKです）に限られますが、強い熱意があればそれ以外でも可にしています（ただしその場合できる指導には限りがあります。）ただしレポートではないので、つねに「なぜEUは現在うまくいかなかったのか」などの（少しテーマが大きすぎますが）疑問点を最初に提示して、それについて複数の文献を使って「分析」を行ってください。直接データを使用して分析できればなおいいです。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

金融のゼミ→金融関係のように直結する学問ではないので個人の力量と関心によってかなり差があります。金融・保険・不動産・地方公務員・交通・流通・食品関係・アパレルなどまさに経済活動にわたるものはなんでもというところがあります。卒論のテーマと関連したところに就職している人が多い印象があります。志望業界を限定はしませんが、貫性を持つことが大切だと思います。実際に教員になった人はまだいませんが、高校教員免許取得率がわりと高いです。教育実習の時期は、ゼミをお休みにしてありますので教員志望の方も大丈夫です。

(6) 教員について(自己紹介等)

専門はスイス・フランス国境地域の経済史です。趣味は映画や舞台などを見ることです。ゼミの関心に応じて、ゼミの時間に欧米経済史に関連する映画を鑑賞して感想を話し合ったりなども時々しています。飲み会はゼミ生の希望にもよりますが、多い年は1か月に1回、少ないときは学期に2、3回やっていました。事態によりますが本年度はZoomやラインチャットでのヴァーチャルお茶会や飲み会も計画したいと思います。一見おっとりして見られがちですが、報告の内容などには結構突っ込みます。

(7) その他

ゼミは人数が少ないので、どのような態度で臨んでいるかは教員だけではなく他のゼミ生にもすぐにわかります。本当にほかにもやりたいことや事情があってなんとか両立したいのか、単に手を抜きたいのかすぐにわかります。出席回数や発言回数といった形式的なことだけではなく（もちろんそこに現れては来ますが）、自分の適性とどういう貢献ができるかを考えたうえで誠実に参加してくれることを望みます。

- ・選考で重視する項目

成績

- ・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定 なし

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ サブセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ サブセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | | | |

- ・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|------|-----------------|--|
| 経営組織 | 経営戦略 | | |
| | | | |

- ・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 3年(男) | 5人 | 3年(女) | 1人 | 4年(男) | 3人 | 4年(女) | 0人 |
|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|

- ・教員からの説明

(1) テーマ

- ・ 企業や業界の調査・分析・戦略立案（特に、公開情報の収集と分析方法について）
- ・ 読むことと書くことを通じた学習

(2) キーワード

経営戦略論 マーケティング戦略 調査法 企業分析 業界分析 因果関係 研究方法 製造直販業
業態開発 プラットフォーム・ビジネス

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

2年後期はユニクロの創業者、柳井正の著作をとりあげ、マーケティング分析や財務諸表分析、他企業との戦略比較等を行います。比較のみなさんにとって身近な企業ではありますが、大ヒットし成長したのは皆さんが生まれる前のことであり、ユニクロがどのように成長してきたのかについては知らない部分が多いかもしれません。歴史的経緯の確認の後には、各種公開情報の収集方法を学び、エクセルによるグラフの作成や、スライドを用いたプレゼンテーション、レポート執筆時にWordの各種機能で使うべき機能と使うべきでない機能、文章表現上のルールなど、基礎的な手法を一通り、ユニクロ

を通じて学習します。

3 年前期は、特定の業界を対象として、問いを立て、調査し、レポートにまとめる作業をグループ単位で行います。前期が問いのないままに始める予備的な調査であったのに対して、後期は説明のつかない不思議な現象を探したり、解くべき重要な問題を探すところから研究プロセスの全体を経験します。3 年後期は、毎年内容を変えていて、グループワークで何らかの調査プロジェクトを行うか、研究方法の本の輪読、研究手法の習得等、卒論を見据えての学習となります。

4 年次は、卒業論文の執筆となります。4 年前期はテーマや問いの設定を試行錯誤し、4 年後期は各自調査を行ったり、卒業論文を執筆します。過去のタイトル一覧は Web で公開しています。

(4) 卒業論文以外で論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

3 年次では輪読のレジュメ作成や、プロジェクトのレポート作成など、絶えず何かしらの文章を日常的に書いたり直したりすることになります。各学期 A4 版で 10 枚程度のレポートを執筆予定です。読み書きを通じて、正確にクリアに考えるトレーニングを行いますので、文章を書くのが嫌いな人には明確に向いていないと思います。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

あまり詳細に把握していませんが、これまで聴いた限りだと IT、人材系、メーカー、住宅・インテリア、アパレル、飲食などいろいろでした。学年によってだいぶ雰囲気が違いますので、この先も割といろいろだと思います。

(6) 教員について(自己紹介等)

1984 年兵庫県神戸市生まれ。2007 年一橋大学商学部卒業、2013 年一橋大学大学院博士後期課程修了、博士（商学）。一橋大学イノベーション研究センター特任助手、東北学院大学経営学部准教授を経て、2020 年度より現職。本学では「経営入門」「経営組織」「製品戦略」を担当しています。ゼミ生の関心に応じて戦略論・組織論・イノベーション論・マーケティング論あたりのトピックには対応可能です。

(7) その他

- 履修制限、他科目の履修等について
 - 経営学科限定（他の履修科目のばらつき抑制のため）。
 - 他の授業で教えたことをゼミで繰り返す時間がとれないため、尾田の講義科目で、未履修のものは全て履修することを強く推奨します。
- ゼミの進行について
 - 原則毎週ノート PC を持参してください。ウェブブラウザと Office をフル機能で使えるものが望ましいです（Win 推奨、Mac は許容できますが、Chromebook や iPad は非推奨）。
- その他のイベントについて
 - 合宿や調査、学外イベントへの参加等で全員参加を要するものは予定していません。単発で自由参加の企画（何か見に行くなど）は提案するかもしれません。
 - 懇親会も定例の予定はしていません。各学年の雰囲気をしながら、少人数でご飯を食べたり、卒パをやるのかなどとその都度提案をしています。実績で年 1 回程度、任意参加。
 - 本ゼミは学年別に実施し、学年を越えた交流は少ない予定です。1 コマ 90 分で終わります。なるべく普通の授業のように運営する予定です。
- 適性等について
 - 毎回の出席が厳格に求められますし、課題の要求水準はイージーではありません。締め切りを守り、毎週自律的に取り組める人を求めます。普段の授業で課題の出し忘れや遅刻をする

人は明確に本ゼミに向いていません。

- 課題の未提出や連絡の無い欠席等に際しては以降の履修を認めないことがあります。ゼミに入れば全員合格できるというわけではなく、水準に満たなければ他の授業と同じように落ちます。このことを理解した上で応募してください。
- 選考について
 - 応募者が一定の人数以下の場合、選考を行わず原則全員受入を予定しています。詳細は <https://odaha.jime.jp/> を御確認ください。
 - 選考に際しては、例年、取得総単位数と累積 GPA を確認しています。ゼミ生に対して成績水準について何かを要求するわけではないのですが、累積 GPA で 3 ぐらいを卒業までキープできることは重要であり、尊敬されることであると尾田は考えています。

小野 正人ゼミ

- ・選考で重視する項目：ゼミへの熱意、表現力、成績/取得単位の順に選考します（下記参照）
- ・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定：予定なし
- ・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--------|-----------------|------|
| 経営入門 | 基礎演習 B | 経営分析 | 財務会計 |
| | | 会計入門 | |

- ・現在のゼミ生数（※下記のほか3年1名、4年3名が海外留学中です）

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|
| 3年(男) | 11人 | 3年(女) | 9人 | 4年(男) | 12人 | 4年(女) | 8人 |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|

- ・教員からの説明

(1) テーマ 『企業研究』

大企業、中小企業、ベンチャービジネス、外国企業、非営利組織を対象に、ケーススタディの手法を用いて企業研究に取り組む。企業の実情と課題に向き合う実践的なゼミです。

1. 目的：個々の企業を分担して研究し、発表・議論することによって、実社会において役立つ力を養っていきます。担当教員の専門分野はベンチャービジネスとアントレプレナーシップですが、ベンチャーや事業創造を視野に置きつつも、スタートアップから巨大企業まで幅広い組織を対象に考察します。
2. 内容：①会社が公開する諸資料の収集方法、分析方法の学習、②発表・プレゼンテーションのトレーニング、③グループワーク、④実社会に向けた学習活動（キャリア設計、創造性・主体性、就職活動準備）、⑤外部講師を招聘した企業研究・討議、を行う。

(2) キーワード

1. 「企業を見る力」：社会人になればさまざまな会社と付き合う機会が訪れる。会社をどのような物差しでどのように評価すればよいかを体得してほしい。
2. 「適応力」：ゼミでは、世の中で起きている変化を理解しうまく活用できるように修養することを考えていく。21世紀は開発や進化を一つの会社や自分の周りだけで行うのではなく、世界の多様な人々と組んで取り組むオープン・イノベーションの時代であり、そのような環境に生き残って活躍できる人材を目指す。
3. 「創造力」：ゼミの目標は自分で未来を拓く力をつけること。知識を増やし、論理的に考え、他人に説明できるように努め、同時に自分がどうやって生きていかを考えてほしい。

(3) ゼミの進め方と求める人材

- ・2年次は、「経営分析」の授業をもとにゼミ生が講義を行う反転授業形式で行います。また授業に関連したケース演習で経営分析の力を養います。3年次は、各グループに課せられた企業研究(グループワーク)と有価証券報告書/アニュアルレポートの解説を行い、グループごとに企業研究の成果を発表しゼミ内で議論します。4年次は、各自が関心のある会社・業種・テーマを選択して個人別に企業研究を行い、その成果をもとに卒業論文を作成します。
- ・企業評価の基本的な知識を修得するために、年1～2冊の文献を輪読します。

・様々な職業の選択肢と変化に柔軟に適応できる人材育成を目指しています。学外の専門家/実務家のゼミ招聘講演などを行う予定です。初対面・専門外の異なる世代の人々と交流する機会があるので、ゼミ生は主体的に質問や議論することが必須となっています。これらに取り組む熱意のある人がゼミ入室の条件であり、幹事や役割を引き受けられないような消極的な学生は応募をお断りします。

・ビジネスの知識・関心・探求・アナリシスの技能を高めていく実務重視のゼミです。色々なことに関心がある人、頭が硬くない/柔軟な思考力を持った人、面白い仕事がしたい/仕事を面白くしたい人が向いています。ただし高度な学術性・専門性を経験する機会が少ないことに留意してください。

・教員は 2028 年度末で定年退職の予定のため、今回募集する 2026 年度演習 I の履修者は 4 年まで指導を受けられますが最後のゼミ生となります。

・ゼミ選考の倍率は例年 1.5~1.8 倍程度です。

(4) 卒業論文

・脱落者を出すことなく良い卒論を提出することを目標にしています。2 年後期から分析手法と文献資料収集の知識を習得していき、卒業論文への意識を高めていきます。3 年後期の段階から卒論のテーマを定めて前倒しに作業を行い、4 年後期に卒業論文を完成させます。昨年度 4 年生の卒論の対象企業は以下の通りですが、学生の関心や問題意識に込えられるようにテーマの領域は柔軟に考えています。

日本マクドナルドホールディングスの研究 -外食産業における競争優位性 -
セブン&アイ・ホールディングスの研究 -市場成熟下における総合小売業の今後-
KDDI のサブスクリプション戦略から見る通信業界のビジネスモデルの変化
TIS 株式会社の研究 -IT 企業の社会課題解決力とその可能性について -
オープンハウスの研究 -高成長の実態と課題を探る -
医薬品流通の構造変化と大手卸の台頭
東急不動産の研究 -都市開発の取り組みを中心に -
サイバーエージェントの企業分析 - 広告業界を駆け抜けるネット多角化戦略 -
伊藤園の企業分析 -飲料メーカーとしての強みと課題 -
日本のコンサルティング業界の変遷と将来
ネット時代における放送業界の転換 -フジテレビの収益構造を手がかりに-
NEC の研究 - 事業転換の背景と成果 -
ユニ・チャームの研究 -日系日用消費財メーカーの比較を中心に-
ニトリと良品計画の比較分析 -日本の成功企業の類型を探る-
富士通の研究 -医療 IT への取り組みを中心に-
カフェ業界の変遷と消費者行動の変化
人材業界の比較研究 -A I 活用を中心に-
ソフトバンクグループの研究 - 通信会社から世界最大級の投資会社へ-"
国産スポーツブランドの戦略的展開 -ゴールドウインの強みと課題 -
アサヒグループホールディングスの多角化戦略から考える飲酒文化の変容

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

・例年、ベンチャーに入る学生もいれば中央銀行に入る人もおり多岐にわたっています。現在のゼミ生は公認会計士を目指す人、スタートアップ立ち上げを考えている人がいます。昨年度卒業生 20 名の業種は IT5 名、HR (人材系) 5 名、金融 4 名、コンサル 3 名、メーカー 2 名、法律事務所 1 名でした。私自身大企業や国家公務員を経験してきましたが、それらの職場は構造問題をかかえており決して安泰とは思いません。雇用が大きく変わる時代に、既成概念にとらわれずに進むべき分野を自分で考え動くことが重要と思います。

(6) 教員について(自己紹介等)

- ・1958年高知県生まれ。四国の山中で育ち、中高は陸上競技部、大学はボート部。もともとは体育会人間。
- ・東京大学経済学部卒業。國學院大學経済学研究科博士後期課程退学。日本製鉄/内閣府/日本生命保険/日本ベンチャーキャピタル/スタンフォード大学留学を経て、慶應 SFC 特別招聘助教授、城西大学経営学部教授。2020年に國學院大學経済学部に着任。大学卒業後、メーカー勤務にはじまり、中央官庁/金融機関/シンクタンク/海外留学/ベンチャーキャピタル/大学教員と、さまざまな職場を歩いた実務家教員です。
- ・担当講義：ベンチャービジネス、経営分析、キャリア開発など。
- ・良くも悪くも物わかりが良くさばさばした性格で、判断は早いがあきらめも早い。フルマラソン 12 回出走、富士登山競争 3 度出走。現在は山歩き・サイクリング・料理が趣味で、富士山 12 回、高尾山 305 回登頂。歳をとっても健全な精神と身体を維持すること、新しい取り組みにチャレンジすること、年齢より十歳若く見られることが目標です。

2026 年度演習 II



バーベキュー大会



木村 秀史ゼミ

・選考で重視する項目

- ①成績（GPA と修得単位数）
- ②面接と課題

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|-----------------------------|-----------|-----------------|--|
| 金融の基礎 | 日本の金融システム | 基礎演習 B | |
| 国際通貨と国際金融 (経営の学生はオープン科目) | | | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|-----|-------|-----|-------|----|
| 3年(男) | 9人 | 3年(女) | 11人 | 4年(男) | 11人 | 4年(女) | 4人 |
|-------|----|-------|-----|-------|-----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ

お金の観点から経済を学ぶ—金融と国際金融

(2) キーワード

銀行、証券会社、中央銀行、株式・債券、金利、国際通貨・為替レート

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

【ゼミの基本的な進め方】

金融論や国際金融論に関する書籍の輪読&グループワーク (全学年合同)

グループワーク形式でゼミを行います (1グループ4人程度)

報告担当者のプレゼンテーションの後に、グループで質問事項の検討を行います

(適宜、教員がグループを回りながらフォローに入ります)

⇒グループで疑問をぶつけ合いながら話し合うことをモットーにしています

★当ゼミでは専門知識だけではなく、資料作成能力、プレゼン力、コミュニケーション能力
考える力 (ロジカル思考)、リーダーシップといった総合力の強化を目的としています。

【その他の活動について】

①他大学とのディベート大会 (鹿児島大学、島根県立大学、大妻女子大学)

主に「論理的に考える力」を養う目的で他大学とのディベート大会を複数回実施します

ディベート大会は勝敗がハッキリするのでやりがいのある面白いイベントです

②他大学との合同ゼミ (主に大妻女子大学)

グループ研究や卒論の成果を他大学のゼミと合同で実施します

③ゼミ合宿 (8月下旬ごろ)

首都圏を中心としたエリアで2泊3日で合宿を行います (全学年合同)

⇒もちろん勉強中心ですが、レクなども多く実施するため良い思い出になります

場所は決まっているわけではありませんが、最近では熱海周辺が多いです

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細 (枚数や時期など)

特にありませんが、ゼミの中で課す場合があります

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

金融のゼミということもあって、全体的に金融機関が多めです (銀行や証券会社)

それ以外にも幅広い業種に就職しており、IT関係、公務員、不動産、商社などがあります

(6) 教員について(自己紹介等)

専門領域は国際通貨・国際金融論で、最近の研究テーマは「国際通貨ヒエラルキーの概念から見る発展途上国の 対外債務」です。趣味はアニメ全般のいわゆるオタクです。アニメに関してはかなり詳しいと自負しております。サークル「ラブライブ研究会」の活動には積極的に関わっております。

(7) その他

当ゼミでは新聞を読むことが必須です。新聞を読むことを通じて世の中の現状を知って初めて勉強していることが生きてきます。



・選考で重視する項目

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--|-----------------|--------|
| | | 金融の基礎 | 現代日本経済 |
| | | | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|----|-------|----|-------|---|
| 3年(男) | 13人 | 3年(女) | 1人 | 4年(男) | 8人 | 4年(女) | 人 |
|-------|-----|-------|----|-------|----|-------|---|

・教員からの説明

1. テーマ

このゼミは、日本経済や国際経済の興味深い現象について、マクロ経済学や金融論の手法を用いながら分析し、ゼミ生全体で楽しく、真剣に考えていくような演習を目指します。その際、理論的な分析ばかりでなく、実際のマクロ経済データや金融データを手に取りながら実証的な分析も重視します。

2. キーワード

マクロ経済学、金融論、国際経済学、日本経済論、ファイナンス理論

3. ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

2年次は、齊藤誠著『教養としてのグローバル経済：新しい時代を生き抜く力を培うために』（有斐閣）のすべての章を輪読して、日本経済を取り巻くグローバルな経済環境について理解を深めます。演習は、ゆっくりと、じっくりと進めていきます。とにもかくにも、1学期をかけて、1冊の教科書を丁寧に読み込み、その内容についてゼミ生や私と議論をしていきたいです。

また、3年生とともに、日本経済新聞の記事を読み、それについて議論する機会を設けたいと思っています。

最終的には、経済現象に対して、楽しく、そして真剣に向き合えるような態度を養っていきたいと思います。

3年次は、2つの学習テーマを掲げています。

第1に、大竹文雄『経済学 Basics』を輪読し、2年生のときと同じように、1年間をかけて、1冊の教科書を丁寧に読み込む機会を設けていきます。そうした輪読・議論を通じて、経済学の基本的な考え方を身につけるとともに、経済学の言葉を用いて、自分の意見を述べることができるトレーニングを楽しくやっていきたいと思っています。

第2に、輪読課題を日本経済新聞（以下、日経新聞）とします。毎日、日経新聞を読む習慣を身に付ける練習を演習課題としてみます。学生時代のうちにこうした習慣を身に付けると、社会人になってからとても役に立ちます。

4年次は、ゼミ生ごとにテーマを選んでもらい卒論の完成を目指します。

4. 演習IV以外で論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

特にありません。

5. 先輩たちの主な就職先と傾向

令和7年より赴任した教員なので、実績がありません。

6. 教員について(自己紹介等)

私は、昭和35年生まれなので、60歳を超えた教員ですが、気持ちも、身体も、できるだけ若くなるように心がけています。大学卒業後は、銀行に勤めてエコノミストやアナリストの仕事をしてきました。その後、米国のマサチューセッツ工科大学で経済学博士号をとって、カナダや日本のいくつかの大学で教鞭をとってきました。25年度より、いくつものご縁があつて國學院大學経済学部で奉職することになりました。

銀行のエコノミスト時代から数えると、40年あまり、日本経済や世界経済を観察してきたことになります。その間、大学の関係者だけでなく、政府や日銀、民間企業の人たちとも仕事をしてきました。また、大学教育においては、非常に元気のよい、面白い若者たちと一緒に過ごす機会にも恵まれました。このゼミでも、そんな私の経験を踏まえて、ゼミ生とともに有意義で面白い経験や機会を共有していきたいと思っています。

私の教育上のモットーは、個々の学生に対して成果の絶対的な水準を求めるのではなく、私の講義や演習を受ける前と受けた後と比較して成長していること、すなわち、成果の相対的な水準の改善を求めていきたいと思っています。

何らかのご縁があれば、ゼミと一緒に学んでいきましょう。

(7) その他

大学の4年間は、知識を高める習慣とともに、健康を保つ習慣も大切です。自分の体のケアもできるようにして社会に旅立って行ってほしいと思います。

【ゼミの風景】



- ・選考で重視する項目

真面目に楽しく学ぶ意思があること

- ・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
| | | | | |

- ・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--|-----------------|--|
| | | 財政の基礎 | |
| | | | |

- ・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|----|-------|----|-------|-----|
| 3年（男） | 10人 | 3年（女） | 6人 | 4年（男） | 7人 | 4年（女） | 10人 |
|-------|-----|-------|----|-------|----|-------|-----|

- ・教員からの説明

(1) テーマ

「地域問題と地方財政」

演習の内容は、地域の経済・社会問題とそれらを解決するための地方財政の現状や課題について、ゼミ生が協力しながら学ぶことです。

このゼミの大きな利点は、みなさんが興味のある分野を学びやすいことであると思われます。現代の経済社会において「地方公共団体（地方自治体）」が果たしている役割はとて大きく、みなさんの生活は地方公共団体の存在を抜きにしては成立しません。地方公共団体の活動領域は、警察・消防・道路整備や都市計画・公共交通・上下水道・教育・社会保障（医療・介護・子育て支援）など広範囲にわたります。地方公共団体は地域問題を解決するために、それぞれの公共サービスをどのような仕組みに基づいて誰に向けて提供しているのでしょうか。そのために必要な財源は、どのような財政制度に基づいて集められているのでしょうか。

「住民に最も身近な政府」である地方公共団体が地域問題にどのように取り組んでいるのかを学び、時代の変化に対応した地域の経済社会や政府のあり方を一緒に考えましょう。

(2) キーワード

地方財政、地域問題、まちづくり、財政分析、納得できる学生生活、まじめに楽しく

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

このゼミを志望する学生は、卒業までのゼミ活動について以下の3点に同意してください。

1. 他のゼミ生と協力し、教えあひながら、ゼミ活動を進めてください

ゼミ活動は自分の課題を済ませておけば良いというのではなく、自分が成長するために、他のゼミ生と一緒にすることが基本です。ゼミ生同士が密に連絡を取り合い、必要に応じて他のゼミ生の相談に乗るなど、協力して成果を出すことを目指してください。

2. 演習の時間外にも、ゼミ活動には十分に時間をかけてゼミ活動に取り組んでください

困ったときにはサポートしますので、がんばって取り組んでください。

3. ゼミ合宿を行う場合には必ず参加し、楽しく活動してください

その他、先輩・後輩のゼミ生や卒業生との交流イベント等を開催することもあります。

これらは相互学習や就職活動に役立てるためのゼミ活動の一環として行います。一生の間になかなか得られない有益で貴重な機会ですので積極的に参加してください。

各年次におけるゼミの進め方は以下の通りです。

2年次： 【1】地域問題や地方財政に関する文献の輪読と、【2】市区町村の財政分析を行います。これらの活動を通して、読書習慣、文献読解、資料作成、発表、科学的考察、ディスカッション、情報収集、統計分析の仕方を身に付けてもらいます。2月頃に春の発表会を行い、ゼミ活動の成果発表や3年次の活動に向けた準備を行います。

3年次： 【1】学内外のプレゼン大会や討論会への参加… 作業を分担し、プレゼン資料の作成・発表やグループ論文の執筆・討論などを行います。【2】就職活動の準備… ゼミ生主体で情報交換・応募書類の検討・面接練習を行います。【3】卒業論文の作成に向けた準備… 研究テーマの決定、作業計画の作成、資料の収集・分析に着手します。12月頃に学外発表、2月頃に春の発表会を行い、ゼミ活動の成果発表や後輩へのアドバイスを行います。

4年次： 卒業論文の執筆… 自分で設定した研究テーマに基づいて、相互にディスカッションしながら作業を進め、卒業論文としてまとめます。9月頃に合宿、2月に春の発表会を行い、卒業論文の執筆に向けた議論、卒業論文の発表、後輩へのアドバイスを行います。

就職活動の際や卒業後に、納得できる楽しい学生生活を送ったと自信を持って言えるよう、ゼミ活動に取り組んでもらえると幸いです。

(4) 卒業論文以外で論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

2年次： 市区町村財政の現状に関する小レポート（3000字程度・1月末頃に提出）

- 3年次： プレゼン資料（15分程度で報告するための分量・10～11月頃に提出）
グループ論文（8000～1万2000字程度・10～11月頃に提出）
- 4年次： 卒業論文（1万2000～2万字程度・10～11月頃に提出）

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

1～4期生の就職先は、不動産業、IT関連業、人材開発・出版業、公務員（横浜市・東京都・関東財務局・防衛省等）などです。5期生も就職活動を積極的に行い、続々と内定を得ています。

(6) 教員について(自己紹介等)

2020年に着任しました。財政と社会保障について、現地調査を取り入れた国際比較研究を行っています。ニューヨークの貧困者医療保障、サンフランシスコのチャイナタウン・コミュニティ、テキサスの刑務所財政、北海道釧路市のドクターヘリ、大阪府阪南市の住民自治などを調査してきました。疲れた顔をしていますねとよく言われるのですが割と健康です。

東海林 孝一ゼミ

・選考で重視する項目

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|-------|-----------------|------|
| 会計入門 | 簿記の基礎 | 予算管理 | 財務会計 |
| | | | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|-------|-----|-------|----|
| 3年(男) | 8人 | 3年(女) | 7人 | 4年(男) | 10人 | 4年(女) | 6人 |
|-------|----|-------|----|-------|-----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ 会計の目で企業を見よう

東海林ゼミでは管理会計について研究します。まず、会計学は財務会計と管理会計に大きく2分類することができます。財務会計は企業の利害関係者（株主や債権者、従業員等）に企業の財政状態や経営成績等に関する情報をどのように開示するかを研究する領域です。

管理会計は企業経営をサポートするための会計であり、企業がもっと合理的に経営するために必要な会計理論や技法のことを言います。なお管理会計には予算管理と原価計算という2つの領域があり、ゼミでは主に予算管理を中心に管理会計全般を学びます。皆さんが就職する大企業や上場企業は、予算管理制度を採用していることが必須になっていますので社会人になって必要な知識の一つです。

新型コロナウイルスによって、世界の経済、日本の経済は大打撃を受け、ロシアによる大ウクライナ侵攻、アメリカ、イスラエルにイランや周辺国との紛争によって食糧や資源価格の高騰、さらに円安がそれに拍車を掛けています。当然、企業経営にも深刻な影響があり、すでに倒産する企業も出始めました。管理会計で学ぶ知識は企業経営にとって非常に重要な必須の知識です。例えば損益分岐点分析（黒字になるために必要な売上高の計算や、赤字にならないためには売上高の減少をどの程度までに抑えなければならないか）や資金予算（日々の資金繰りや設備投

資資金に関する予算)等は就職してからすぐに役立つ知識です。また「値引きをして販売数量を伸ばすべきなのか、それとも販売数量が減っても値上げをして利益率を改善すべきなのか」といった企業戦略を策定するときに、管理会計は欠かすことができません。深夜はお客の減ることが明らかなのにコンビニが24時間開店しているのも、マクドナルドでポテトやドリンクがセットされているメニューが割安なのも、管理会計の理論や技法を理解すると簡単に理解することができます。

(2) キーワード ①ゼミこそ大学 ②自分の可能性への挑戦 ③考えて行動する

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

①演習Ⅰ(2年次後期)

演習Ⅰの内容は会計学の基礎である財務会計について、各自テーマごとにレジメを作り発表してもらいます。名を私のゼミでは一定水準になってから発表が認められます。よって発表水準に達していないと判断された場合は、何度でも作り直しを命じられます。ここでの訓練が演習Ⅱで生かされます。

②演習Ⅱ(3年次通年) 活動基準原価計算、マテリアルフローコスト会計、シェアードサービスマネジメントなど管理会計の主要な理論や技法について、テーマごとにレジメを作り発表してもらいます。文献検索、データの収集能力が求められます。なお3年次終了までに日本商工会議所簿記検定2級を合格してもらいます。

③演習Ⅲ(4年次通年)

演習Ⅱで培った管理会計の理論や技法をもとに、各自が選んだ卒論のテーマに沿って、順次発表してもらいます。

→(4)参照

④演習Ⅰ(サマーセミナー)、演習Ⅰ(スプリングセミナー)、演習Ⅱ(サマーセミナー)、演習Ⅱ(スプリングセミナー)、演習Ⅲ(サマーセミナー)ではマネジメントゲームを用いたアクティブラーニングを行います。4人1組で売価原価の異なる3種類の商品を売買して、貸借対象表損益計算書、株主資本等変動計算書を作成して業績を競い、株主総会で決算承認と取締役の選解任をします。4年生や3年生は販売戦略の立案や長期借入や増資などの資金計画の立案、経営を行い、2年生は入金伝票、出金伝票の処理、金銭出納帳、仕入帳、売上帳、商品有高帳の記帳処理を担当します。また予算編成、予算差異分析も行います。

ここまで順次説明したよう、演習Ⅰ～Ⅲは理論や事例の研究、演習Ⅰ(サマーセミナー)から演習Ⅲ(サマーセミナー)までの大学での集中授業は、ビジネスゲームを用いたアクティブラーニングになりますので、それぞれが連携しています。従って全て出席することが原則になります。事前の許可を得ずに欠席するとゼミを辞めてもらいます。就職活動といえども例外ではありません。

(4) 卒業論文以外で論文などを課す場合の詳細(枚数や時期など)。

特にありません。必要になった場合は事前に君たちと相談して相談してから決めます。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

メーカーの営業や経理の比率が過半数で、金融機関(三井住友銀行、みずほ銀行、群馬銀行、長野銀行、山陰合同銀行等)や公務員(国土交通省、前橋市役所、坂戸市役所、国税専門官、財務専門官、消防士)などがいます。具体的な企業名を挙げると、アサヒ、アイリスオーヤマ、NTTドコモ、いすゞ自動車、伊藤園、キューピー、NEC、日本製鉄、東洋製罐、タカラスタンダード、ブリヂトン、楽天、ローソン、理研ビタミン、三菱食品、東洋

エレクトロン、沖電気、大阪住友セメントなどです。大学の専任教員 4 人、税理士は 20 人以上います。近年の公認会計士 2 次試験合格者は令和 6 年度 3 年 1 人 4 年 1 人、令和 7 年度 3 年 1 人 4 年 1 人 OB1 人です。米国公認会計士もおります。また税理士志望のための大学院在籍者は人。変わり種では、歯科医師（開業医）、市議会議員、ダイニングバー経営者もゼミの卒業生にはおります。

(6) 教員について(自己紹介等) 國學院大學経済学部卒業後、横浜市立大学商学部大学院修士課程を修了（経営学修士）し、青山学院大学経営学研究科博士後期課程を経て現在に至ります。横浜ベイスターズとお酒が大好きです。硬式野球部長でもあります。昔、学生につけられたあだ名は「明るいオタク」でした。

(7) その他 オフィスアワー（時間：毎週金曜日 10 時 30 分～12 時 30 分 場所：若木タワー0820 研究室（予約不要）や公開ゼミ（5 月 8 日 3 限 3 年ゼミ 3304 教室 5 限 4 年ゼミ 3304 教室および 5 月 15 日 3 限 3 年ゼミ 3304 教室 5 限 4 年ゼミ 3304 教室 どちらも予約不要）で何でも質問して下さい。



杉山 里枝ゼミ

・選考で重視する項目

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--|-----------------|--|
| | | | |
| | | | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|
| 3年（男） | 11人 | 3年（女） | 8人 | 4年（男） | 14人 | 4年（女） | 8人 |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ

歴史的視点から読み解く日本経済と企業経営

(2) キーワード

日本経済史、経営史、企業家史

(3) ゼミの進め方

- ・ 2年次：経済史・経営史に関する基本的なテキストを輪読し、基礎知識を身に付けます。毎回、グループでプレゼンテーション方式で内容を発表してもらい、教員による解説と質疑応答をするほかに、輪読のテーマに沿った課題(ワーク)を出し、それについてグループで議論し(GW)、全体討論を行います。
- ・ 3年次：秋学期に他大学(明治・青学)との合同ゼミ(プレゼンテーション交流発表会)を行うので、そのための準備として、グループでテーマを設定し、研究を行います。学内のゼミ成果発表会にも参加します。プレゼンのテ-

マは、歴史に限らず経営学や経済学から自由に設定します。また、外部講師を招いて講演していただき、幅広い知識について学びます。

- 4 年次：就活対策として業界研究や面接対策などを行い、その後は卒業論文作成に向けた研究を中心に活動を行います。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

とくにありません。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

金融(証券、銀行)、保険、商社、不動産、サービス、コンサル、メーカー、福利厚生、音楽、食品、航空など幅広い業種に就職しています。企業で年間全国 MVP を受賞した卒業生もいます！

(6) 教員について(自己紹介等)

専門は日本経済史、経営史です。鉄道史・電力業史・織物業史・財閥史といった産業・企業に関する研究から、観光(ツーリズム)の歴史研究、渋沢栄一・岩崎弥太郎といった企業家に関する研究までひろく経済史・経営史に関する研究を行っています。学部時代には経済政策や公共経済学を中心に学び、その後経済史を専攻しました。そのため、幅広い視野から経済・経営の「歴史と今」を結び付けて研究することを志向しています。

(7) その他

ゼミ生同士、グループワークを中心に、和気あいあいとした雰囲気の中でゼミ活動を行っています。ゼミ活動を通じて、専門的知識の修得のみならず、卒業後に必要な「社会人基礎力」(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を向上させていってほしいと思っています。ゼミ生にとって、「毎週集まりたい！」「杉山ゼミでよかった！」と思えるような環境づくりを目指し、指導を行っています。歴史に対して苦手意識のある学生であっても、その意識を克服し楽しく学べるよう、わかり易く説明するように心掛けていますので大丈夫です。わからないことがあれば、どんどん質問してください。楽しく、そしてしっかりと知識や主体的に学ぶ力を身に付けたい学生は、ぜひ応募してください！！





鈴木 智之ゼミ

- ・選考で重視する項目

GPA, 社会人基礎力など総合的に判断します。

- ・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | | | |

- ・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--|-----------------|--|
| | | 人的資源管理 | |
| | | | |

- ・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 3年(男) | 13人 | 3年(女) | 3人 | 4年(男) | 0人 | 4年(女) | 0人 |
|-------|-----|-------|----|-------|----|-------|----|

- ・教員からの説明

(1) テーマ

企業で働く「人間」(または、働こうとする学生)に関わる経営学の人的資源管理論, および産業・組織心理学を扱います。

(2) キーワード

組織行動, 組織開発, 人材育成・人材教育, リーダーシップ, チームビルディング, キャリア開発, モチベーション, パーソナリティ, 就職試験, 人材採用, 適性検査, 採用面接, エントリーシート, 給与制度, 人事評価, 労働・雇用問題, 早期退職, ビジネスモデルなど。

これらに関連する産業・組織心理学や経営学の理論や企業事例を学びます。

(3) ゼミの進め方

企業経営と産業・組織心理学についての複数の教科書を輪読しながら、卒論を2年次から書き始めます。

ゼミは学生が主体となります。司会・ファシリテーション、プレゼンテーション、グループワークなど学生が中心的役割を担います。

(4) 演習IV以外で論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

毎学期末に卒業論文の途中版を提出します。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

前任校では経営コンサルティング業界、IT業界、製造業などにゼミ生は就職しました。

(6) 教員について(自己紹介等)

大学卒業後、新卒で米国系経営コンサルティング企業に入社し、経営戦略・人事制度についての経営コンサルタントとして勤務しました。その後、20代後半で経営コンサルティング会社を創業し、30歳で人材採用支援企業を起業して10年以上代表取締役を務めました。起業しながら社会人大学院で博士学位を取得し、慶応大学、東京大学、名古屋大学で大学教員として働いてきました。

(7) その他

経済学科、経営学科の両方の学科の学生が応募可能です。

就職活動に積極的でビジネス意識の高い学生を歓迎します。

大学院進学などを目指すアカデミック志向の学生も歓迎します。

データ分析が得意または好きな学生も歓迎します。

経営学と産業・組織心理学の接点に興味がある学生も歓迎します。

・選考で重視する項目

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
| | | | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|------|-----------------|-----------|
| 経済経営数学入門 | 統計入門 | ミクロ経済Ⅰ | マクロ経済Ⅰ |
| 経済理論入門 | | ビジネスリサーチ | データ分析の手法Ⅰ |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 3年(男) | 7人 | 3年(女) | 2人 | 4年(男) | 8人 | 4年(女) | 1人 |
|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ

日本とアメリカのデータを使ってマクロ経済学の基礎理論がどこまで有効か確認する

(2) キーワード

マクロ経済学 パソコン 統計分析

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

時間割上の90分のみを利用し、各学年独立して実施します。

2年生

教科書：N・クレゴリー・マンキュー：『マンキュー入門経済学』、センゲージラーニング株式会社

ゼミ中はノートパソコン上で画面を共有して進めます。複数のゼミ員が同時にノートパソコンで作業し、その作業結果をネットワーク上で共有し、修正作業を継続する必要があるため、合格後、ノートパソコンを新たに購入する場合選定相談を受けます。また、希望者にはノートパソコン利用法と基本ソフトウェア、ネットワーク環境設定を研究室で確認します。

夏休み中に数学準備として「経済経営数学入門」の講義ノート No. 1～10 を復習してもらいます。後期開始後は、経済理論の入門教科書の内容を、報告者がスライドと口頭報告用の原稿を用意して報告します。スライドには、教科書で利用されている図表を、見た目をお絵かきで再現するのではなく、理論的な説明に沿って数式化し、表計算ソフトを用いたグラフや表で再現します。章末の問題は報告時間の余りの範囲で報告者以外に解いてもらいます。

演習 1 以外に、3 年次の理論分析の準備のために「データ分析の手法 I・II」のいずれか必ず履修してもらいます。また、「ビジネスリサーチ」と「データ分析の手法 I・II」（3 年で取れなければ）は 4 年前期までに必ず履修してください。

3 年生

教科書(予定)：R・J・ゴードン：『現代マクロエコノミクス』原著第 6 版上下：多賀出版

中級のマクロ経済学理論の教科書の内容を、章毎にデータ分析と理論の報告を分担しておこないます。

「分析」はその章に掲載されている、アメリカ経済の 1980 年代までのデータを使ったグラフを、最新の日米のデータを用いて再現したグラフと比較し、教科書の理論的な説明がどこまで当てはまるか確認します。

データを用いた検証はグラフの再現を超えてどこまでできるか、ゼミ生単独では範囲を設定できない場合が多く、教科書の理論をどのような手法を組み合わせるかを指導します。

演習 2 以外では「ビジネスリサーチ」・「データ分析の手法 I・II」の単位を取得（遅くとも IV 年前期までに）してください。

4 年生

卒業論文は、3 年時の演習で行った分析の中から各自でテーマを設定します。テキストの記述から、対象範囲を拡げたり、理論をより精緻化したりして掘り下げ、「データ分析の手法 I・II」の手法を用いて結論を導くことを重視します。独自のアイデアや論考がなくとも、学んだ手法が駆使されていれば高く評価します。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

特にありません。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

金融・商社など一般的な事務系職種に就職していますが、IT 系への就職も目立ちます。

(6) 教員について(自己紹介等)

日本経済全体の消費行動の理論構築と計量経済分析が研究テーマです。経済状況の変化に影響を受けて生じる、耐久消費財支出時期の理論的最適からの遅れをモデル化・検証しています。

私の性格は大まかで、論文に求められる緻密さは数学に依存しています。理論モデルを飽きずに延々とひねくり回したり、結果が中々出ないデータ分析をしつこく続けたりするのは大好きですが、ゼミ生の指導で細かいミスをはじくり返したり怒り続けたりする根気はありません。

(7) こんな学生に来てほしい

ミクロ・マクロ経済理論、モデル構築に必要な数学、データ分析の手法と学ばなければならない範囲は広いですが、理論の基礎から学び直すので、改めてゼミからスタートしたい人でも大丈夫です。が、ゼミの準備に時間をかけないと達成水準は低くなるので、学ぶ意欲はしっかりと持って来てください。経済経営数学入門水準の数学と、統計入門水準の Excel 操作能力は前提です。統計ソフト R 等を使ったより高度な分析に興味がある人を歓迎します。

また、応募者数が多数であればグループワークとしますが、基本的に個人対応なので、基礎演習のようなグループワークの苦手な人も全く問題ありません。

なお、応募者数が予定人数を下回る場合、提出書類の要件を満たしていれば合格とし面接は実施しません。

高橋克秀 ゼミ

選考で重視する項目 ①なにかとがったところ、得意なものをもったひと、変わった人（過去にはヒッチハイクで日本一周をした人、タイでムエタイのプロ資格をとった人がいました）②努力できる人（運動部の一部リーグのレギュラーで GPA3.5 の人がいました）③自分で見聞を広めようという人（留学、ワーホリ志望者、海外旅行が好きな人、英語プラスなにかの語学を勉強している人など）④数学受験で入学した人⑤新聞を読んでいる人 ⑥統計検定などの試験勉強に抵抗のない人－これらのうちどれかひとつでけっこうです。

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定 なし

| 演習 I サマセ | 演習 I スプセ | 演習 II サマセ | 演習 II スプセ | 演習 III サマセ |
|-------------|-------------|--------------|--------------|---------------|
| | | | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--|-----------------|-----------|
| 経済経営数学入門 | | ミクロ経済学 | データ分析関連科目 |
| | | マクロ経済学 | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|-------|-----|-------|----|
| 3年(男) | 8人 | 3年(女) | 3人 | 4年(男) | 10人 | 4年(女) | 2人 |
|-------|----|-------|----|-------|-----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ 社会経済問題にデータからアプローチする

(2) キーワード 統計学 データ分析 計量経済学 複雑ネットワーク分析 AI 統計検定

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

毎回担当者を決めてパワーポイントで発表する。個人のパソコンは必須。統計学検定の取得を勧めている。3 級は全員取得を目標にしている。2 級合格者は就活市場で引手あまたとなる。毎年 2 名ほど合格している。合宿はやらない予定。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

統計学検定 3 級、2 級の勉強を奨励している（ゼミでも練習問題を解く）

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

有名企業、一流企業を狙うように指導している。最近では日本生命、第一生命、かんぽ生命、ソニーG、スズキ、みずほ銀行、静岡銀行、帝国データバンク、積水ハウスなどに就職者が出ている。

(6) 教員について(自己紹介等)

新聞記者→エコノミスト→教員 世界遺産歩きが趣味

(7) こんな学生に来てほしい *時間割上は金 6 ですが教育上の効果を上げるため金 5 から 3 年生と合同でゼミをします。 正当な理由なく欠席することはできません。90%以上出席できるかどうかよく考えてから応募してください。このゼミでは統計学の基礎を学んだうえで、現実の経済・経営問題、社会問題（最近では少子高齢化や健康・医療の統計分析も）を数値的に解析します。テーマは自由です。芸術に関するテーマも歓迎しますが、アニメとゲームは範囲外です。春休み、夏休みは軽い課題が出ます。統計学は全くの初歩から始めますので心配はいりません。数学は得意である必要はありませんが、経済経営数学入門レベルは前提とします。

田原 裕子ゼミ

・選考で重視する項目

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | ○ | | ○ |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--|-----------------|-----------|
| | | 基礎演習 B | フィールドスタディ |
| | | 社会保障論 | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 3年（男） | 13人 | 3年（女） | 4人 | 4年（男） | 8人 | 4年（女） | 3人 |
|-------|-----|-------|----|-------|----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ

人口減少社会における地域政策と社会保障

少子高齢・人口減少社会における持続可能な社会保障と地域のあり方について、大学での座学と渋谷における地域連携活動を通じて具体的に学び、考える。グループワークや学内外でのプレゼンテーション等を通じて、協働する力や自分の考えを的確に伝える力を身につけることで、社会人基礎力を養う。

(2) キーワード

地域連携活動の実践、学外機関に対する研究発表

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

・2年後期はグループでの調査研究（昨年度は「使われる公共空間」をテーマにグループ研究を行いました。グループ研究を通じて、テキストの読み方・まとめ方、データの集め方・整理のしかた、伝わりやすいプレゼンの基礎をしっかりと学びます。

- ・ 3 年前期はグループでの調査研究を継続しつつ、学外機関（渋谷区、一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント等）に対して研究結果の報告も行います。3 年後期からは卒論執筆に向けた文献調査、統計調査を始めます。
- ・ 4 年次は卒論の執筆を進めます。
- ・ 毎週のゼミ以外に、卒論発表会・OBOG会、学外での研究報告、渋谷での地域連携活動（渋谷さくら祭でのイベントの企画・運営など）、公式飲み会（年に 3 回程度）などがあります。
- ・ 部活のように勉強するゼミです。時期や人によって差がありますが、平均すると生活の 3 割～ 4 割くらいをゼミに費やしているそうです。とはいえ、勉強のしかたや時間の使い方を工夫することで、就職活動はもちろん、サークルやバイトとの両立ができており、そうした能力が就活や仕事にも活かしているようです。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

- ・ 2 年後期：ゼミ成果発表会で報告します。
 - ・ 3 年、4 年：学外でのプレゼンの機会も豊富です（渋谷さくら祭実行委員会・渋谷川広場運営連絡会での実績報告、渋谷駅前エリアマネジメント、渋谷区住宅政策課などへの研究成果の報告など）。
- ※ グループワークの内容は年によって変わります。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

金融・保険、インフラ（鉄道、通信）、テベロッパー・ゼネコン、不動産、メーカー（食品、製薬、自動車、化粧品、機械など）、広告、出版、テーマパーク、公務員など。

年に 1 度の卒論等発表会・OBOG 会のほか、普段のゼミに顔を出してくれる OBOG も多く、学年の離れた OBOG に就活や卒論の相談ができることも強みです。

(6) 教員について(自己紹介等)

都市地理学の視点から渋谷再開発がクリエイティブワーカーの働き方や地域経済・社会に与える影響、高齢人口移動が地域に与える影響などを研究しています。お酒を飲むのが好きなので、「卒業したら飲み友達」です。

(7) その他

初回以来、毎年参加している渋谷さくら祭への貢献に対して、令和 7 年度院友会長賞を受賞しました。

「渋谷さくら祭」で検索すると関連記事がたくさん出てきますので、ぜひチェックしてみてください。また、3 年次のグループワーク（渋谷区との共同調査）は渋谷区の「まちづくりマスタープラン」（第 1 章）にも取り上げられています！

[渋谷区まちづくりマスタープラン \(city.shibuya.tokyo.jp\)](http://city.shibuya.tokyo.jp)



中馬 祥子ゼミ

・選考で重視する項目

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定 = なし

| | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
| | | | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|-------|-----------------|--|
| 開発経済 | 共生と経済 | 社会科学入門 | |
| | | | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|
| 3年(男) | 12人 | 3年(女) | 8人 | 4年(男) | 13人 | 4年(女) | 8人 |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ：グローバル経済の中で深刻化する経済・社会格差問題(ジェンダーを中心に)

このゼミでは、グローバル経済の展開と密接に関わりつつ深刻化する経済格差や社会的差別の要因・現状分析、ならびにそれらを踏まえた「オルタナティブな経済を模索する動き」について、ジェンダーを中心に学んでいきます。ゼミ生の皆さんが直接対象とする地域は問いませんが（日本、他の先進諸国、開発途上国、いずれの地域を扱っても構いません）、分析の視野をその国や地域に限定することなく、背後にあるグローバル経済の動態について理解を深めていくことが必須となります。それにより、様々な地域について研究を進めているゼミ履修生間の分析視点に共通項が生まれるのです。

(2) キーワード：格差、貧困、差別、市場経済、社会的企業、社会的連帯経済

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

演習 IIIB での卒業論文完成に向けて、演習 I では文献の探し方、読み方、分析の仕方、分析成果の執筆や発表の仕方など、基本的なアカデミックスキルについて、集中的におさらいするところからスタートします。その際には、

1 年時に履修した「基礎演習 A」の資料を用います。また、こうした作業と並行して、ゼミテーマに即した内容の基礎的な文献をゼミ生全員で読み進めます。その過程で、研究論文の「批判的な」読み方のコツをつかむと同時に、ひとつの文献の中から、芋づる式に他の文献を探していく手法を実地で学んでいきます。学期の最終授業日には、各自、共通講読文献についての「書評レポート（4000 字程度）」を提出してもらいます。

3 年生前期の演習 IIA では、2 年次までに培ったアカデミックスキルを基礎に、「個人テーマ」を最終決定します。そのテーマに沿って自ら適切な文献を検索し、入手出来るようにすると同時に、グループ・ワークを中心として、同じテーマについて異なる視点から書かれた複数の文献を比較検討しながら、自分の考えをまとめていく訓練をします。前期の最後には、個人テーマについて、自ら選んだ複数の文献について批判的に比較検討する「書評論文（6000 字以上）」を提出してもらいます。

後期の演習 IIB は、例年 12 月頃に実施される「ゼミ成果発表会」での報告準備と、その報告成果を基にしたゼミ論文（12000 字程度）の執筆が主な課題となります。「ゼミ成果発表会」に関しては、後期初回に比較的近いテーマの履修生たちでグループを組み、グループ・テーマを設定した上で報告スライドの準備を進めていきます。10 月と 11 月は、ほぼ毎回、報告準備の進捗状況に即した主題についてゼミで発表をし、その内容やプレゼンテーションのやり方についてゼミの仲間からコメントをもらいながら、改善していくことになります。「ゼミ成果発表会」終了後には、グループ・テーマを深掘りする過程で理解が深まった個人テーマに立ち返り、ゼミ論文を形式面・内容面双方から整えていきます。演習 IIB ゼミ論文の提出期限は最終授業日となります。

4 年生前期の演習 IIIA は、就職活動に関するスキルアップを視野に入れつつ、履修生各自が前年度に執筆した演習 IIB ゼミ論文の内容に基づき、プレゼンテーションやディスカッション、ディベートを行う力を高める訓練を繰り返して行きます。専門性の高い内容について、伝える側はいかにゼミの仲間が理解できるように、興味を喚起するように伝えることができるか、また聴く側は、いかに能動的・批判的にその内容を理解し、コメントや議論をすることができるか、を考えていきます。その上で後期には、再度、演習 II で執筆したゼミ論文に立ち返り、前期の学びの成果も生かしつつ、それを「卒業論文」としてよりよいものに仕上げていく作業を行うこととします。

なお、演習 I、演習 II、演習 III いずれも合宿の予定はありません。

(4) 卒業論文以外で論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

1. 演習 I 最終授業日・締切 4000 字程度の書評レポート
2. 演習 IIA 最終授業日・締切 6000 字以上の書評論文
3. 演習 IIB 最終授業日・締切 12000 字程度のゼミ論文（自由課題）

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

例年、金融・保険業が少数おり、メーカーやサービス業（BtoB も BtoC もあり）へ行く人が主、という感じです。近年の卒業生の主な就職・進学先は以下の通り。あいおいニッセイ同和損保、アエスベー、一条工務店、静岡銀行、積水ハウス不動産東京、東京大学大学院経済学研究科（進学）、三井倉庫エクスプレス、リコー・ジャパン、WOWOW コミュニケーションズなど。

(6) 教員について(自己紹介等)

専門分野は、開発途上国ならびに先進諸国の女性労働研究、世界システム論研究、社会的連帯経済研究など。中・高とクリスチャンの学校に通っていたこともあり、子どもの頃から、ことあるごとに格差問題や差別問題について

考えさせられていました。その影響もあってか、20代の頃は、途上国開発の実務家になろうと思い、スリランカの山村で農村開発 NGO のボランティア活動に従事。超高速飛行のゴキブリが顔に激突してもめげない神経は、その時に養われたものです。…とは言え、こうした活動の過程で、現場の努力だけではどうしても出来ない、大きなグローバル経済の構造についてもしっかり学びたいと思うようになり、結局は学者の道を歩むこととなりました。

(7) その他

和気あいあいと、しかし論文の書き方やディスカッションの仕方などはしっかりと身に付くよう、ハード・ソフト両面を併せ持つゼミにしたいと思っています。自ら「力をつけたい」方の応募をお待ちしています！



手塚 貞治ゼミ

・選考で重視する項目

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--|-----------------|--|
| | | | |
| | | | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 3年（男） | 10人 | 3年（女） | 6人 | 4年（男） | 9人 | 4年（女） | 9人 |
|-------|-----|-------|----|-------|----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ

「成長戦略研究」

企業が成長するためにはどのような戦略をとって、どのようなビジネスモデルを構築すべきなのか、を考えていきます。教員の実務経験も踏まえて、実社会に出てからも役立つ戦略分析力を養うことを目的とします。

(2) キーワード

ビジネスモデル、ビジネスプラン（事業計画）、経営戦略

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

現段階では下記を予定しています。

演習Ⅰ（2年後期）

・経営戦略論の入門書（と言ってもそれなりに本格的な書籍）を輪読し、まずは「経営戦略」についての

基礎力を身につけます。

課題図書 『経営戦略入門』網倉・新宅（日本経済新聞出版社）

演習Ⅱ（3年生）

- ・前期は、実在企業について分析し、その企業の成長戦略を評価・分析していきます。教員より分析手法やフレームワーク等をレクチャーしますので、それを踏まえて、各チームに分かれてその企業の課題や戦略の方向性を発表し、全員で討議を行います。
- ・後期は、コンテスト応募を目標にチーム別にビジネスプランを作成してもらいます。

演習Ⅲ（4年生）

- ・卒業論文を作成していきます。各個人が特定の業界・企業等のテーマを選定し、その業界・企業の課題を分析し、戦略の方向性について論文にまとめていきます。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

随時、ゼミ内での発表資料は提出してもらいます。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

メーカー、小売、IT、航空、コンサルティング、公務員 等、特に傾向はありません。

(6) 教員について(自己紹介等)

約30年間にわたり、コンサルタントとして実務を経験してきました。

研究と実務の二刀流を模索し続けており、その経験をゼミ生の方々にフィードバックできればと考えています。

本学における2026年度の担当科目は、「ビジネスソリューション」「日本の中小企業」「事業承継」「現代ビジネス」「基礎演習」等です。

(7) その他

ゼミとは、学生が主体となって学び合う場であり、教員はあくまでその支援をする存在です。そしてゼミとは、勉学だけでなく、社会人になるために必要なコミュニケーション能力等を養う人格形成の場でもあり、卒業後も続く絆を育む場でもあります。

したがって、ゼミ活動を最優先して真摯に取り組んでいただく必要があります。毎回出席したうえで、討議参加・課題作成することが条件となります。体調不良や忌引以外による欠席は原則として認めません。

積極的かつ真面目に取り組んでいただける方に対しては最大限のサポートをするつもりですので、そのような意欲のある方の応募をお待ちしています。

中田 有祐ゼミ

・選考で重視する項目

①面接での受け答え、②成績、③ゼミ応募への意欲・ゼミ選びの真剣さ

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| — | — | — | — | — |

※合宿は実施しますが、「単位なし合宿」です。

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|---------|-----------------|------------|
| 基礎演習 B | 会計入門 | 簿記の基礎 | ★の科目 1 つ以上 |
| 経営入門 | 財務会計[※] | | |

★ビジネスゲーム、リーダーシップ基礎、ビジネスデザイン、政策デザイン、リーダーシップ応用

※財務会計は、入ゼミ後の履修で構わない。

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|-----|
| 3年(男) | 15人 | 3年(女) | 9人 | 4年(男) | 10人 | 4年(女) | 16人 |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|-----|

・教員からの説明

(1) テーマ：「財務会計」「企業分析」「PBL」

会計をただ学ぶだけでなく、それらを用いて実際に企業を分析することで実践力を養います。全体としては会計・経営の知識を活用した企業分析に最も比重を置きつつも、外部コンテストで企業から提示された課題に取り組むなど、社会に出てチームで協働するときに必要な力も養っていきます。

(2) キーワード：

雰囲気は楽しく、学びは妥協せず

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

①授業期間：

2年後期～3年前期までに、教科書（2,000円程度）2冊を用いて、財務会計・財務諸表分析、経営戦略の基礎知識を身につけます。そのうえで、興味をもったテーマについてより深く学んでいきます。

進め方は、担当グループが資料を準備し全体発表または相互発表を行い、発表に対するグループワーク・フィードバックを行う、という形式が中心です。（発表なしでグループワークだけの日もあります。）**卒論以外のほぼすべての活動は、グループ単位で取り組みます。**また、合同ゼミやコンテストなど大きなプロジェクトの直前には、ゼミの時間外に適宜、グループごとの個別指導も行います。

（参考：2026年度のスケジュール予定）

| |
|--|
| 2年後期：企業分析①(財務諸表分析)、テキスト輪読①(財務会計)、テキスト輪読②(経営戦略)、外部コンテスト①(2025年度：「りそな NextGen アイデアコンテスト」)、学内合同ゼミ、学内合同発表会 |
| 3年：外部コンテスト②(「神奈川産学チャレンジプログラム」)、外部コンテスト③(2026年度：マイナビ「課題解決プロジェクト」)、企業分析②(発展的な企業分析)、4大学インターゼミ、学内ゼミ成果発表会 |
| 4年：卒業論文執筆、ゼミ内ビジネスコンテスト(内容未定) |

②春休み・夏休み期間：

2年次の春休み、3年次の春休みと夏休みに合宿に行きます（4年生は任意・有志参加）。合宿では、主に企業を仮想経営する「マネジメントゲーム」を行います。関東近郊で行い、交通費込みで1回あたり3万円程度です。その他、春休みと夏休みそれぞれ1～2回程度、学内でのゼミも行います。

③ゼミ外での学習活動：

外部コンテスト、学内外のゼミとの合同ゼミに参加します（①のスケジュールを参照）。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

現時点で予定はありません。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

中田ゼミは創立14年目で、卒業生は12期生まで出ています。就職先は、金融業（証券、銀行、信金など）とIT関連業（会計・金融のシステムなど）がやや多いですが、その他は、業種・職種はさまざまで特段の傾向はありません。

(6) 教員について(自己紹介等)

研究は、財務会計理論・国際会計に関するテーマが主です。性格はマイペースで、座右の銘は「蓼（たで）食う虫も好き好き」。何事も拒まずに、まずは受け入れる姿勢が肝心と思っています。趣味は、音楽鑑賞（特にメタル）、PC自作など。聞きたいこと・相談ごとがあれば、気軽にメールで連絡ください。

(7) その他

①複数学年・連コマでのゼミ

先輩・後輩間の交流を深め、また学習内容を深める目的で、**複数学年合同・連コマ**でゼミを行っています。2026年度後期は、2年生は金5・6限に参加してもらう予定です。（※必修の英語が当該時間に入っている場合などは、個別に配慮。）**毎週2～3コマ連続でのゼミ参加**が前提となりますので、注意してください。

②課外活動（飲み会・食事会）

懇親会も随時開催しています。毎年、卒コンや OB・OG 会も開いています。

③ゼミ選択について

ゼミは、サークルやアルバイト以上に大学生活の軸となり、卒業後も関係の続く活動です。ゼミを選ぶ際には、自らの将来を考えるとともに、各種情報源をフル活用して必要な情報をつかんでおきましょう。

学生目線の情報は、学生委員会作成のゼミ紹介冊子やゼミ紹介動画等を参照してください。また、ゼミの雰囲気を知るために、個別ブース相談会と公開ゼミへの参加も強く推奨します（参加の有無を選考の材料にもしません）。

(学内・3ゼミ合同発表会にて)



(産学チャレンジプログラム表彰式にて)



根岸 毅宏ゼミ

・選考で重視する項目

①面接、②課題&成績

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| なし | なし | なし | なし | なし |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--|-----------------|--|
| 基礎演習 B | | 財政の基礎 | |
| | | | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|-------|-----|-------|----|
| 3年（男） | 9人 | 3年（女） | 8人 | 4年（男） | 12人 | 4年（女） | 4人 |
|-------|----|-------|----|-------|-----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ

根岸ゼミでは、「現代の経済・社会問題」を学び、その解決策を考えます。

ゼミのテーマが「現代の経済・社会問題」と大きなものになっていますが、これは私の学問分野と関係しています。私の専門は財政学という分野で、これは政府の活動や制度・政策を研究する学問です。政府の活動は多岐にわたり、また中央と地方とですみずみまで広がり、話題になる経済問題のほとんどに政府が何らかの形で関係しています。政府の政策手段を解説した *The Tools of Government* では、歳入面での租税、歳出面での補助金や貸付のみならず、規制、委託契約、バウチャー、協働などなど、数多くのもが出ています。こうした政策手段を使って、今おこっている経済・社会問題にいかに対応するのか、これらすべてが根岸ゼミでの勉強の対象になります。

各自が興味・関心に合わせてテーマを設定し、勉強してください。

テーマの設定は自由でも、2年次、3年次、4年次で行うゼミの課題は決まっています。以下の（3）に書いてあります。よく読んでください。

(2) キーワード

根岸ゼミの特徴は、ゼミでの学び方も大事にしています。キーワードは、2つあります。

第1は、グループワークです。グループを基本単位として活動します。外部コンテストに参加してグループ論文やプレゼン資料を作成する時だけでなく、卒業論文を書く時も、卒業論文の執筆は個人ですが、スケジュール管理はグループ単位で行います。

第2は、メンター&メンティー制です。根岸ゼミゼミでは、「タテとヨコ」のつながりを大事にしています。ヨコのつながりをグループワークが意味するのなら、タテのつながりはメンター&メンティー制が意味します。これは、先輩がコーチとなって、後輩を設定した目標に向かって導きます。

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

2年次、3年次は、主として、①外部コンテスト、②学習プロジェクトを行う予定です。

①外部コンテストとしては、外部の団体が実施するオープン参加のコンテストに参加します。そのために、グループ論文やプレゼン資料を作成します。

2年次は、授業期間に1つ、春休みに1つで、2つのコンテストに参加する予定です。3年次は、9月末締切のコンテストに1つ、それ以外のコンテストに1つで、2つのコンテストに参加する予定です。外部コンテストで評価を受けて(賞を取って)、学習の成果を実感します。

②学習プロジェクトは、ゼミ生が自ら選び本を読み、自分の学習を進めるものです。ゼミ生は読んだ本で一番面白かった部分について、先生になったつもりで、他のゼミ生に教え、自らの学習が進んだことを実感します。

これらについて、どのように学習すればいいのか、ゼミでの学び方は、メンター&メンティー制により先輩に相談できますし、時には教えてもらえます。

4年次は、卒論を作成します。卒業論文も、グループでのスケジュール管理を基本としますので、自分だけ遅れることなく、グループのメンバーと同じ歩調で卒論を書き、完成させます。

ゼミ合宿は、ゼミ生同士の交流もかねて、夏休みと春休みに行う予定です。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細(枚数や時期など)

1つ上の(3)で書いてあります。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

特別な傾向はありません。ほとんどが、第1希望から第3希望くらいまでの企業に就職しています。また、卒業生から就職した後で、メンター&メンティー制の「教わる・教える」という経験がすごく役立っているという意見をもらっています。

(6) 教員について(自己紹介等)

研究テーマは福祉国家財政の研究です。より詳しくは、第1に、アメリカの貧困対策・所得保障政策、政府間関係を研究しています。第2に、日本の社会保険や社会保障の財政問題も研究しています。

(7) その他

①根岸ゼミに向いている学生

ゼミ生同士で相互学習することが好きな学生が向いています。とくに、コンテストに参加する3年次は、授業以外で週に2回程度はチームで集まり勉強します。「グループワーク=怠けられる」と思っていると、大変な目にあいます。

② 課外活動（卒業論文発表会、懇親会、OB・OG会など）

ゼミ合宿以外にも、ゼミ活動の一環として、授業外で行うイベントが年に数回あります。こうした課外活動も含めて根岸ゼミの活動なので、ゼミ生には参加してもらいます。

③ 質問は大歓迎です。公開ゼミの時か、メールで連絡ください。



芳賀 英明ゼミ

・選考で重視する項目

①エントリーシートと面接((7)その他「求める学生像」を参考にしてください)、②成績の順で重視し、最終的には総合的に判断します(※GPAによる足切りはせずに全員面接をします)。

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|------------|---------------|-----------------|--|
| ビジネスリサーチ ※ | マーケティングリサーチ ※ | | |
| | | | |

※ビジネスリサーチおよびマーケティングリサーチは入ゼミ後の履修で差し支えありません。

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|-----|-------|----|-------|-----|
| 3年(男) | 6人 | 3年(女) | 12人 | 4年(男) | 8人 | 4年(女) | 12人 |
|-------|----|-------|-----|-------|----|-------|-----|

・教員からの説明

(1) テーマ

消費者の視点から学ぶマーケティング問題 -学術および実務から消費者を理解する-

(2) キーワード

マーケティング、消費者行動、新製品開発、広告コミュニケーション、ブランド戦略、マーケティングリサーチ

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

芳賀ゼミは「マーケティング」のうち、消費者がなぜ買うのか、いつ買うのか、何を買うのか、どのように買うのかについて「消費者行動論」といった心理学と関連の深い分野を中心に研究を深めていきます。その中で、“マーケター”に必要とされる様々なスキル(情報収集力、分析力、企画力、プレゼンテーション力など)を実践的に身につけていきま

す。ゼミでは、丁寧なフィードバックを行い、学生一人ひとりの成長に繋げることを大切にしています。ゼミの進め方としては、基本的に学年ごとに取り組めます。ただし、先輩・後輩の交流を深めるため、年に数回になります。複数学年合同・連続コマで取り組む予定です。

また、芳賀ゼミでは、学生自身がイベントの企画や運営に関わる機会も多くあります。これまでに、先輩のゼミ生たちがリーダーシップを発揮してゼミ合宿、懇親会、ゼミ募集などの様々なイベントについて設計・実施に取り組んできました。“自分たちで場をつくっていく経験”を重視する学生にとって、やりがいのある環境となっています。

■ 演習ごとに取り組むテーマ(予定) ■

2 年生(演習 I) : 基礎としてのマーケティングリサーチ実習

・マーケティングないし消費者行動の実務および学術でよく利用するマーケティングリサーチ実習を行います。グループ毎に好きなテーマを決め、調査・分析の後、プレゼンテーションをしてもらいます。こうした分析は、消費者の心理を理解するものであり、その後のグループ研究、産学連携、卒論などに活用するための手段となるものです。テーマ例として、キャラクター(サンリオ…)のイメージ/俳優・アイドルのイメージ/スターバックスのフラペチーノのイメージ分類、方言による告白のイメージ分類、風呂キャンに及ぼす要因の探索など。

※統計や分析って難しそう…と感じている方へ※

▶先輩の声「先生が配布資料に詳細な手順や数字の見方をまとめてくれています。数式を使わずに、操作しやすいソフトを活用しています。また、丁寧なサポートがあります。」

3 年生(演習 II A・II B) : 応用としてのグループ研究(学術)/産学連携(実務)

・学術：学術的な先行研究を踏まえ、自分たちの興味・関心のあるテーマ(例えば、企業とのコラボである産学連携を見据えたものから学生の趣味・好きなことまで)のもと、マーケティングリサーチのうちの定量調査に基づいた実証研究についてプレゼンテーションをもらいます。他大学との合同ゼミでプレゼンテーションを行った上で、質の高い研究に関して本人たちの希望があれば学会発表をすることもあります。本年度の公開ゼミでは、占いと性格特性、コスメと広告、ブランド・ロゴ、プロモーションなどの研究の取り組みについて見学を予定。

・実務：産学連携による商品開発・共同研究に取り組めます。先方の都合もあるため、現時点で何をするかは未定です。これまで、メーカー(ファッション)、テレビ局、IT 企業などとコラボしてきました。

4 年生((演習 III(卒業論文)A/B) : 集大成としての卒業論文

・マーケティングのうち、消費者行動領域に関する自らの興味・関心のあるテーマのもと、マーケティングリサーチに基づく卒業論文の執筆に取り組めます。主な例については、ホームページをご覧ください。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細(枚数や時期など) 特にありません。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

主な内定・進路先は、外資系コンサルティングファーム、マーケティングリサーチ大手、メガバンク(IT・デジタル枠を含む)、メガベンチャー(SaaS 等)、証券、大手メーカー、航空サービス(CA)、公務員など多岐にわたります。

みなさんがよく知る企業において、ゼミでの学びを実務に繋げ、今後期待される形で多くの先輩が羽ばたいています。

(6) 教員について(自己紹介等)

専門はマーケティングのうち、消費者行動論。趣味は、珍しい海外料理の食べ歩き、スポーツ観戦(特に、高校野球)、甥っ子と遊ぶこと(実際は遊んでもらっている??)。好きなキャラクターはスヌーピー。

(7) その他

■ 求める学生像 ■

① 知的な好奇心と行動力を持ち、自ら学ぼうとする姿勢がある人

- マーケティングや消費者行動に関して、実践を通して深く理解しようとする姿勢を保てること

② ゼミ活動に積極的に関与しようとする意欲がある人

- 研究活動だけでなく、ゼミ合宿、懇親会、ゼミ OBOG 会などにも主体的に参加し、ゼミの運営や雰囲気づくりに貢献すること

③ 協調性を持ち、ゼミという“場”の一員として他者と良好な関係を築ける人

- 自由度の高いゼミだからこそ、協力することを大切にし、教員や他のゼミ生と良い関係性を構築すること

※ 経済学科・経営学科を問わずにどちらの学生も歓迎しています。学科による評価の差はありません。

詳細については、下記の [HP](#) と [Instagram](#) を参考にしてください



・選考で重視する項目

①課題と面接（特に、ゲーム理論・行動経済学への関心）、②成績

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
| | | | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|-------|-----------------|--------|
| ゲーム理論 | 行動経済学 | ミクロ経済Ⅰ | ミクロ経済Ⅱ |
| | | | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|
| 3年(男) | 10人 | 3年(女) | 8人 | 4年(男) | 12人 | 4年(女) | 9人 |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ

このゼミでは、ゲーム理論や行動経済学を用いて、独自の理論モデルの作成や模擬実験による分析を行います。ゲーム理論は、「人々による駆け引き」を記述する理論であり、行動経済学は、ヒトのいわゆる「非合理性」（認知の歪みや近視眼性など）や「他者に配慮する性質」（利他的行動など）について探求する学問です。これらの理論は、ごく身近な出来事（日常の意思決定や友人・家族・恋人との関係）から企業間や国家間の出来事まで、非常に広範囲にわたる人間行動や社会現象を分析対象としています。それゆえ、ゼミ生は豊富な選択肢の中から関心のあるテーマを設定することができ、自由に分析を進めることができます（真面目なネタもよし、キャッチーなネタもよしです！）。独自のモデル分析などを通して、身の回りや社会に起こる現象の背後にある仕組みを、自分の頭で考え、捉えられるよう訓練をしていきます。

またこのゼミでは、グループでのタスク遂行やゼミ生同士のコミュニケーションを重要視するほか、発表資料やプレゼンの方法などについても適宜フィードバック・ふりかえりを行います。これらを通して、社会人基礎力も養成していきます。

(2) キーワード

ゲーム理論、行動経済学、理論分析、実験デザイン、模擬実験、統計分析

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

【2・3年次】

普段のゼミは以下の流れで実施します（以下の内容を3回の授業に分けて実施します）：

(i)教科書の指定部分を参考に、まずは各自でテーマを設定した上で、独自のモデルや実験デザインを作成し、グループ内で発表し合う

(ii)各自の発表をもとに、グループで1つの成果物を作成する

(iii)グループの成果をクラス全体で発表する

3回分の授業を用いて1つのプロジェクトを行い、半期で合計4つのプロジェクトを実施します。また学期末には、それまでに作成した成果物の中から1つを選択し、グループで更なる改良を加えた上で、レポートにまとめてもらいます。

【4年次】

卒業研究に取り組みます。2・3年次に身につけたスキルを活かして、理論分析や模擬実験による分析を行ってもらいます。基本的には個人ワークですが、定期的にゼミ生同士で進捗を報告し合うなど、各自の研究について全員で議論します。

【研究発表大会、その他の活動（合宿やイベントなど）】

学内外の研究発表大会等に参加する可能性があります。またその他の活動（合宿やイベント等）については、ゼミ生の希望に応じて実施します（この点については、慣例を作るつもりはありません）。有意義なゼミとなるよう、各年代で主体的に考え、独自の文化を作っていただけたらと思います。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

【2・3年次】 上述の通り、各学期末にグループによる最終レポートを提出してもらいます。

【4年次】 前期末に卒業論文のテーマおよび簡単な分析結果を提出してもらいます。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

令和7年度（濱田ゼミ1期生）実績：

IT系(5名)、日用品メーカー(1名)、不動産(1名)、証券(1名)、宿泊業(1名)

(6) 教員について(自己紹介等)

「ゲーム理論」や「行動経済学」に関する理論・実験研究を行っており、主に「社会的選好」と呼ばれる「ヒトの他者を考慮する様々な性質」と、それに関連した戦略的状況に関心を持っています。最近では、「顕示的消費」や「望ましいチーム構成」について理論的な分析を行っています。

出身は兵庫県で、小中高はサッカーをしていました。大学時代は経済学の勉強を頑張りつつ、学習塾でのアルバイトや小学校の野外活動の補助員などもしていました（昔から教育に関心を持っていたように思います）。趣味は歌うこと、YouTube鑑賞（ダラダラと…）、フットサル、お笑い全般です。

(7) その他

ゼミでは、まずは楽しんで活動してもらいたいです。楽しければ意欲も湧いてくるでしょうし、学びも多くなるでしょう。この意味で、「グループメンバーとうまく交流すること」、そして「分析のテーマ選択」が重要だと考えています。ゼミが楽しくなるようなイベント等も、ぜひゼミ生同士で色々と企画してください。

また、1つのテーマをとことん極めるという経験をしてもらいたいです。もちろん各プロジェクトにおいて時間は限られますが、完成した（と思っている）成果物に対して、「何か欠点はないか（どんな批判が来そうか）」「もう1つ2つ追加で面白い分析ができないか」など、とことんメンバー同士で議論してみてください。ゼミで「考え抜いた」経験が、今後の皆さんの糧となることを期待しています。

林 行成ゼミ

- ・選考で重視する項目

GPA、意欲など、総合的に判断します。

- ・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習 I サマセ | 演習 I スプセ | 演習 II サマセ | 演習 II スプセ | 演習 III サマセ |
|-------------|-------------|--------------|--------------|---------------|
| | | | | |

- ・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--|-----------------|--|
| | | | |
| | | | |

- ・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|-------|-----|-------|----|
| 3年(男) | 6人 | 3年(女) | 8人 | 4年(男) | 15人 | 4年(女) | 2人 |
|-------|----|-------|----|-------|-----|-------|----|

- ・教員からの説明

(1) テーマ

当ゼミのテーマは、「医療から日本の経済とビジネスを考える」です。

日本の国民医療費は現在約 45 兆円。この金額だけみても、医療産業は GDP の約 8%を占める巨大産業であり、日本経済の中心であると言っても過言ではありません。そして、高齢化が加速するこれからの時代、医療はまさに日本の重要な成長産業と言えます。しかし、医療は持続可能性に大きな問題を抱えています。このゼミでは、医療の問題を経済学的あるいは

経営学的な分析を通して、みなさんと検討していきたいと思います。

医療問題を経済学や経営学で考えるにあたっては、経済学や経営学での分析スキルがどうしても必要です。ゼミを通して、分析の基礎（経済理論やデータ分析）を修得し、論理的な思考技術を高めながら、医療を中心軸にこれからの社会のあり方を検討していきます。そして、社会で役立つ人間力を高めていけるようなゼミにしたいと思います。

(2) キーワード

医療経済学、医療経営学、産業組織論

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

【2 年次】

ミクロ経済学、ゲーム理論、医療経済学に関わる入門書を輪読し、基礎的な知識や分析スキルを身に付けていきます。輪読では、毎回担当者にプレゼンテーションをしてもらい、教員を含め全員と議論しながら、メンバー全員で理解を定着させていきます。

【3 年次】

①医療経済学に関する専門書や学術論文を輪読し、医療問題や医療制度の理解を深めつつ、分析を通して問題の本質を踏まえた解決方法について議論していきます。テキストを読みながら、その都度分析手法に関する理解も深めていき、本質的に問題をつかみ分析できる力を

修得することを目指します。②他大学のゼミ（慶應、成城、法政など）とインター・ゼミナールを開催し、そこで研究発表をしてもらいます。③林が運営に関わる日本医療経営学会の研究会に参加してもらい、医療経営や医療ビジネスに関わる内容を勉強してもらいます。

【4 年次】

卒業論文の作成に取り組んでもらいます。テーマは、経済や経営の分析対象となるようなものであれば自由に選んでもらって構いません。適宜、研究内容をプレゼンしてもらい、メンバー全員で意見交換を進めながら、卒業論文を作成してもらいます。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

学期末にゼミのテーマに関わる内容のレポートを作成してもらいます。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

林ゼミでは、今年、國學院大學での初めての卒業生を出しました。そこでの就職先は、証券企業、不動産企業、公務員となっています。現4年生では、IT企業、製薬企業、医療機器メーカー、不動産企業、流通企業といった幅広い分野で内定を得ています。前任校では多くのゼミ卒業生を輩出していますが、製薬企業、医療コンサル企業、金融機関、公立病院、赤十字社など、多岐にわたります。

もっとも、就職先は皆さんが決めるもので、私自身はどこに就職して欲しいということはありません。医療関係に興味がある人も、そうでない人も、皆さんが自分の将来をしっかり考

え、幸福になれる進路を選べるようサポートしたいと思います。なお、私自身が国家公務員試験（現在の国家公務員採用総合職試験）を経験しているので、公務員試験指導には対応できると思います。

(6) 教員について(自己紹介等)

専門は、医療経済学、産業組織論です。医療制度・政策、医薬品産業、病院経営、医療ビジネスを経済学的に分析するような研究活動をしています。最近では、特に医薬品産業の経済分析や公立病院の経済経営分析を行っています。

出身は、鹿児島県鹿児島市です。大学進学で東京に上京し、大学卒業後に国家公務員 I 種試験（経済職）に最終合格しましたが、経済学者になりたく大学院に進学しました。大学院時代には大手公務員試験予備校で講師をし、ミクロ経済学やマクロ経済学を中心に教えていました。大学教員として広島の私立大学に赴任し 20 年間の広島での生活を経て、2024 年 4 月に國學院大学に赴任しました。

(7) その他

林ゼミでは、ゼミの課外活動を通じて、様々な成長の機会を提供しようと思います。これまで実施した取り組みの一部を紹介します。なお、これらの会への参加は強制ではありません。参加希望者のみに提供しています。

①病院見学会、病院調査会の開催

日赤赤十字社医療センター、東京医大病院、東京女子医大病院、

おうちに帰ろう病院、メディポリス国際陽子線治療センター、

湖南メディカルコンソーシアム

②企業・病院説明会の開催

中外製薬株式会社、株式会社エラン、株式会社 Mirai Arc、

日本赤十字社医療センター

③学会への参加

日本医療経営学会、全国自治体病院学会

その他にも他大学とのインターン・ゼミナールの開催企画も行っています。

今後も医療系企業や医療機関などの訪問の機会を提供していく予定です。林ゼミでは、こうし

た様々な活動を活用して、現実のリアルな問題意識を深めながら、モチベーションを持って学

修に取り組めるような、向上心あふれる皆さんを歓迎します。

・選考で重視する項目

①パーソナリティ ②ニンゲン・社会への興味関心 ③ゼミ内の多様性

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| ○ | ○ | ○ | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--|-----------------------|------|
| 経営入門 | | 経営戦略 | 経営組織 |
| | | イノベーション・マネジメント（3年次以降） | 組織行動 |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 3年（男） | 6人 | 3年（女） | 2人 | 4年（男） | 7人 | 4年（女） | 1人 |
|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ

経営学に関連する社会科学諸領域

(2) キーワード

経営学, イノベーション, マーケティング, 社会科学

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

(以前はゼミの目的などを長々と書いていたが、たぶん誰も読んでいないのでシンプルに言えば)

5 限に輪読, 6 限に研究発表を行う。輪読も研究もすべて個人ワークであり, 毎週要約レジюмеを提出し, 数週に 1 回研究の進捗報告を行う。また, 知識を習得する場合は講義であるため, ゼミでは原則としてフィードバックや議論を重視する。

正課授業以外の予定としては, 夏に 3 泊の合宿 (2・3 年次のみ), 懇親会 (不定期)。2 年次春休みには 2 週に 1 回のペースでスプセ, 11 月頃に OBOG 会 (不定期)。

(4) 卒業論文以外で論文などを課す場合の詳細

演習 I : 輪読レポート, 研究レポート。

演習 II : 輪読レポート, 研究レポート, ゼミ成果発表会, ゼミ成果発表会要旨。

※2025 年度からグループワークを実施しないため、ゼミ成果発表会に出られるか未定。

※2025 年度は, 現 4 年生が外部のビジネスコンテストに出場していた。そのための諸書類。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

いろいろ。特に傾向はない。どこにでもいるし, どこにもいない (不人気ゼミなので)。

(6) 教員について(自己紹介等)

主な研究テーマは、ゲーマーコミュニティを対象としたコミュニティの生成・発展や、技術継承、組織アイデンティティ、ブランド認識、集合的創造性等。

オタクで根暗で人間嫌いなので、社会とのかかわりを出来る限りなくそうと努力しています。趣味はデジタル・アナログゲーム全般と映画、カメラ、料理、漫画、野球、ジオラマ作りなど。怖いとか厳しいという噂があるので、応募しない方がいいと思います。

(7) その他

①コマについて

複数学年合同で開催する。原則として2コマ連続(5・6限)で参加することが前提となる。7限目までもつれこむこともまああるので、ゼミ後に予定を入れない方がよい。

②ゼミのスタンス

ゼミナールは、大学生活で最も優先しなければならない活動である。アルバイトやサークル活動、旅行、就職活動、帰省、デートなど学生にはやらなければならないことが多く存在しているが、ゼミナールはこれらに優先される。これは、ゼミが大学における学修の中心的な位置づけであるからである。この思想に共感できることが入ゼミの条件である。

加えて、知的に楽しいゼミにはしたいが、ゼミ生同士の仲が良い一般的な意味での“楽しいゼミ”にする意図を藤山は特に持っていない。グループワークはやらないし、(学生が自主的にやるなら応援するが) 教員主導で外部組織と連携したプロジェクトをやるつもりもない。勉強して頭を鍛えること以外は重視しない。

③藤山ゼミを選択肢に入れている人へ

藤山ゼミは「経営学全般」のゼミであり、藤山の気分次第でどういう書籍を読むかが決まるため、特定の分野だけを勉強したい人にはミスマッチが生じる可能性がある。一方で、取り組める研究の自由度は比較的高いと思う。また、藤山は根暗で陰湿な皮肉屋であるため、こういう人間を師匠にしても問題ないと判断できる人のみ応募してくるのが望ましい。

④藤山ゼミに適した人・適さない人

謙虚な人、知的好奇心がある人、勤勉な人、ひねくれ者。協調性や外向性はあるにこしたことはないが、なくてもいい。ただし、少なくとも教員とコミュニケーションをとれない人や自分の力量を鍛えることを優先できない人にはマッチしない。

⑤メッセージ

一般論として、ゼミは単位取得効率の悪い授業である。楽に卒業要件を満たしたい人には向いていない。また、ゼミに所属して勉強するよりも就職活動等に多くの時間を使った方がいい人もいるし、少なくとも短期的には勉強に時間を使うことの意義がイマイチよく分からない人もいると思う。なににより、ゼミに所属せずとも卒業自体はできる。周りに流されてなんとなくゼミに入るよりは、提供されるものと自分の志向性がマッチするゼミを丁寧に探索し、場合によってはゼミに入らないことも選択肢に入れることをお勧めする。

・選考で重視する項目

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--|-----------------|------------|
| 経営入門 | | 経営学史 | 経営戦略 |
| | | 経営組織 | マーケティングの基礎 |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|----|
| 3年(男) | 10人 | 3年(女) | 10人 | 4年(男) | 11人 | 4年(女) | 9人 |
|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ

現代企業の経営課題とその理解 ―事業の創造、リーダーシップなど―

(2) キーワード

社会科学、経営学、経営課題、理論と現実の同時理解

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

本演習では、企業経営をめぐる諸問題に関して、社会科学の思考法をベースに、経営に関する基本的な諸概念、ロジックを学習したのち、その分析枠組みについてできるだけ具体的なケースを踏まえつつ理解する。その際、特定の専門分野のみを学習するのではなく、「経営学」全般（経営管理、経営戦略、経営組織、マーケティング、財務会計等）の知見はもちろん、「経済学」「心理学」「社会学」などの知見を踏まえて「総合的」に学修する。

2年次は、企業経営の全般的な問題について、特定の時代や場所に依拠しない一般的・普遍的なものを意識して取り上げる（『小倉昌男 経営学』を予定）。3年次は、現代の経営理論について隣接する学問分野である経済学、心理学、社会学の知見を踏まえて学修する（『世界標準の経営理論』を予定）。また、「神奈川産学チャレンジプログラム」への参加を通じた実践的な「課題解決型学習」（Problem Based Learning）に取り組む。3年前期の演習は、このプログラムでの取り組みやレポート作成を同時並行的に行い、相互理解を深めていく。3年後期の演習では、「ゼミ成果発表会」に向けてグループに分かれ、研究およびスライド作成を行う。これによって、「理論と現実の同時理解」を目指すとともに、4年次の「演習ⅢA・B」（卒業論文）へ向けた基礎的知識やフレームのインプットとする。以上についての詳細ならびにゼミの進め方についてはシラバスを参照するか、個別ブース説明会等で質問すること。

なお、正課授業以外として、懇親会（半期2回程度）、OB・OG会（年1回）を予定している。

(4) 卒業論文以外で論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

演習ⅡAでは、神奈川産学チャレンジプログラムの報告書を作成する。演習ⅡBでは、ゼミ成果発表会に向けてテーマに関して具体的な事例を踏まえたレポートをそれぞれグループ単位で作成する。いずれもA4用紙15枚(図表、参考文献含む)以上が目安。

(5)先輩たちの主な就職先と傾向

メーカー（電機・食品・電池など）、金融・証券（カード含む）、保険、不動産、小売、卸売（専門商社）、アパレル、サービス、IT、広告、マーケティング、コンサル、航空、鉄道、税理士事務所、小学校教諭等、業種の傾向はあまりない。具体的な企業名が知りたければ直接尋ねてほしい。

(6)教員について(自己紹介等)

山形県川西町出身。専門は経営管理論、経営組織論、経営戦略論。座右の銘は、「祖国があなたに何をできるかを問うのではなく、あなたが祖国に何ができるかを問うて欲しい。」（by John F. Kennedy）

(7)その他（ゼミ希望者へのメッセージ）

【大学およびゼミでの学び】

①常に問題意識をもち経営の現象や問題と結びつけること、②問題を発見・解決するための知識や情報を自分自身でサーベイ（専門書、論文、データ、調査等から）すること、③自分の主張について根拠を持って説明すること。何より、「自ら研究したいという強い欲求をもつこと」が大前提である。

【ゼミの捉え方】

ゼミは「専門テーマを学ぶ場所」だけでなく、「他者と協働して根気強く共通テーマに取り組む場所」でもある。また、人間性や道徳性を高める「人格を陶冶する場所」として捉えて欲しいし、結果として社会的に有用な人材輩出ができるように鍛えるつもりでいる。最後に、2年半の演習で完結するのではなく、その後も何らかの形で星野ゼミとのつながりを維持してくれることを期待する。



細井 長ゼミ

- ・選考で重視する項目

自分の興味関心、学びたいテーマと履修履歴(2次以降の場合は英語力の証明も)

- ・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | | | |

- ・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目（現時点で） | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------------|------------------|-----------------|--|
| 経済理論入門 | 世界経済入門 | | |
| 経営入門 | 1年英語全部、基礎演習 B | | |

- ・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|-------|---|-------|----|
| 3年（男） | 1人 | 3年（女） | 2人 | 4年（男） | 人 | 4年（女） | 1人 |
|-------|----|-------|----|-------|---|-------|----|

- ・教員からの説明

(1) テーマ

「グローバル・エコノミーとビジネス」

国際経済と国際経営の分野で各自が関心をもっているテーマを個人で深めていくことがこのゼミのスタイルです。

(2) キーワード

国際経済 途上国経済 国際経営

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

2年後期は統一テキスト(英語文献)を用いて、3年以降に備え基礎知識の定着、読書習慣の確立、文献の探し方などアカデミック・スキルの涵養を図ります

3年以降のゼミについては学年合同2時間連続となり、自分たちで進め方を決めてもらい、個人のテーマも自分で設定することになります。夏休みにはゼミ合宿を行います。後期は両学年共に卒論に向けた報告が中心になります。そして、4年の終わりには卒論を完成させます。

なお、夏合宿は国外で実施します(3年と4年の2回、違う国)。現地では関係機関、企業の訪問・視察(工場見学が中心)を行います。机上の勉強だけではなく、実際に経済・経営の現場を自分の肌で実感する貴重な機会です。今夏は9月にタイに行きます。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細(枚数や時期など)

3年終了時に10,000字程度の3年次論文を提出してもらいます。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

就職率100%を初代から継続中です。業界は様々。珍しい就職先としては、政令市中学校の社会科教員(経済学部では十年に1人レベルの現役合格)や、一般企業就職後に公認会計士の資格を取得したOBがいます。不況になるとこのゼミの「就職力」の本領発揮です。

また、毎年秋にOB会があり色々な話を聞くことができるとともに(OB会だけでなく随時、顔を出してくれたりします)、タテのつながりも強めています。卒業後もOB会があり、現役ゼミ生のサポート、また学年を超えて交流があります。ゼミOBの海外勤務も出ていて、来年あたりは恒例の合宿でゼミOBの赴任地訪問ができそうです。

(6) 教員について(自己紹介等)

2006年に着任、担当する授業科目としては「世界経済入門」、「国際経済」、「国際経営」などで
す。

(7) その他

・日本でも星野リゾートや製薬会社のように喫煙者の採用をしない企業が増えてきています。こうした状況に鑑み、選考の際、喫煙者のプライオリティは最下位にします。

・卒業までに「国際経済」、「国際経営」の単位は必ず取ってもらいます。両科目を取れない場合、ゼミをクビになります。

・個人テーマの設定は自由ですが、それに取り組むにあたっての基礎は重視しています。筋トレをし
っかりやります。つまらないかもしれませんが、スポーツ選手で筋トレを疎かにする人はいないです
よね。基礎演習のようにグループワークで上辺だけの「勉強ごっこ」をして「勉強した気分になる」
スタイルではないので、そういうやり方を好む場合は他のゼミに行ってください。就職後も勉強の仕
方を知っていることはものすごく役立ちます。

・提出書類について:エントリーシート(エクセル形式、A4で1ページ程)を事前に請求し、それを記
入して、成績情報と合わせて締切までにメールで送ってください(詳細はエントリーシートに記載し
ています)。2次選考以降ではメールで事前にエントリーシートを請求し、記入した上で成績表と
TOEFLやTOEIC等のスコア表(2025年6月以降に受験したもの。ITP可)、1次応募のゼミに提出
した課題の合わせて4つのファイルを指定締切時間までにメールで送ってください。このゼミでは英
語文献を用いるため、他のゼミに未練がなく意欲が確実なこのゼミを第1志望とする人以外には能力
の確認の意味でこのやり方を取らせてもらいます。また、世界経済入門、経営入門、経済理論入門、
1年次必修の英語4科目、の単位を修得していない人は対象外です(特別な事情がある場合は事前に

申告・相談してください)。世界経済入門については、経済学科の学生のみ1年前期の評価が R であった場合は、1年後期に単位を取っていても対象外です。普通にしていれば問題ないレベルですが、1年次のGPAも見ています。なお、エントリーシートは学生からのメールによる請求方式です。請求は時間に余裕をもっておこなってください。メールについて、土日はメール対応しません。16時頃以降のメールは翌日扱いになることがあります。

- ・エントリーシートは何か気合いを入れて書くような内容ではなく、出身高校とか連絡先のようないわゆる事務的なものです。面接も一応行いますが、形式的なものです。面接で見る大きなポイントは時間通りに指定された場所に来ることができるか、です。

- ・何ページか前↑に載っている藤山先生の「メッセージ」はまったくの同感です。それを理解し共感できる人だけがこのゼミに来てください。藤山先生のその他の項目もかなり共感できます。オタク根暗という点は違いますけど。申し添えると、このゼミは人数は少ないですが(夏に外国に行くことも影響していますが)、1次で落ちた人はいません。そしてそれが最終的にゼミ生全員です。現3・4年は2次以降の応募自体がありませんでした。だから途中で辞めていく人はいないですし、やる気が無くラクを求めてネガティブな方向に引っ張る人はおらず、変な派閥争いは存在せず、個人研究ベースなのにゼミとしての一体感があり(この点は藤山ゼミと違いますかね)、みんな満足して卒業していき(と自負しています)、ゆえに卒業後も後輩の相談に乗って関わってくれる、歴代、そんな人たちがこのゼミでのあなたたちの先輩で、これは誇りに思います。

細谷 圭ゼミ

・選考で重視する項目 経済理論入門、統計入門、経済経営数学入門

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
| | | | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--------|-----------------|--------|
| マクロ経済Ⅰ | マクロ経済Ⅱ | ミクロ経済Ⅱ | 現代日本経済 |
| ミクロ経済Ⅰ | | | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|
| 3年(男) | 13人 | 3年(女) | 3人 | 4年(男) | 11人 | 4年(女) | 6人 |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ

当ゼミではマクロ経済学を中心に幅広く学んでいきますが、なかでも長期にわたる経済問題を対象とした経済成長の理論分析と実証分析に焦点をあてます。加えて、わが国の長期的経済動向に重大な影響を及ぼしてくる社会保障問題についても、計量経済学的なアプローチをまじえながら多角的に取り扱います。マクロ経済学やミクロ経済学を深く学びたい人、統計・計量分析ソフトを用いた実証分析に興味のある人、上級の公務員試験の合格を目指す人、研究者やエコノミストの養成を目的とした高度研究型の大学院への進学を目指す人などに特に向いているゼミです。

(2) キーワード

マクロ経済学、動学マクロ経済学、日本経済論、応用計量経済学、社会保障論、COVID-19

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

【2年次】

➤ 日本経済論、社会保障論、経済統計分析の基礎的なテキストの輪読・精読を通じて、学問内容の理解とあわせて効果的なプレゼンテーションの技法を身に付けます。また、レジュメの作成状況についてもチェックし、質の高い学びを目指します。なお、過年度は、学生にテキストを選択し

てもらい、日本経済論について幅広く学びました。

【3年次】

- マクロ経済学の定評ある英文テキストブックについて、1年をかけて丹念に輪読していきます。この1年間の学びがこのゼミの学びの中核部分になります。

【4年次】

- 卒業研究に集中的に取り組んでももらいます。経済理論、統計的手法を用いたものならば、テーマは基本的に自由です。

(4) 演習IV以外で論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

チーム分けをして、具体的なテーマについて調査・研究し、プレゼンを行ってもらえる可能性があります。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

平成29年度着任のため、平成31年3月にはじめて卒業生を送り出しました。國學院での卒業生はまだ6期です（多くの方が金融機関、商社などの民間企業に進んでいます。最近では公務員で東京特別区が人気で複数名おり、R6年度は某区1位合格もいました）。

前任校（東北学院大学）では、公務員（国家公務員、地方公務員等）、民間企業（メーカー、金融機関、商社等）、高校教員、国立の研究型大学院進学とさまざま。比較的公務員が多いのが特徴でしたが、そのための対策等をゼミで行ったことはありません。闘魂注入のみ。

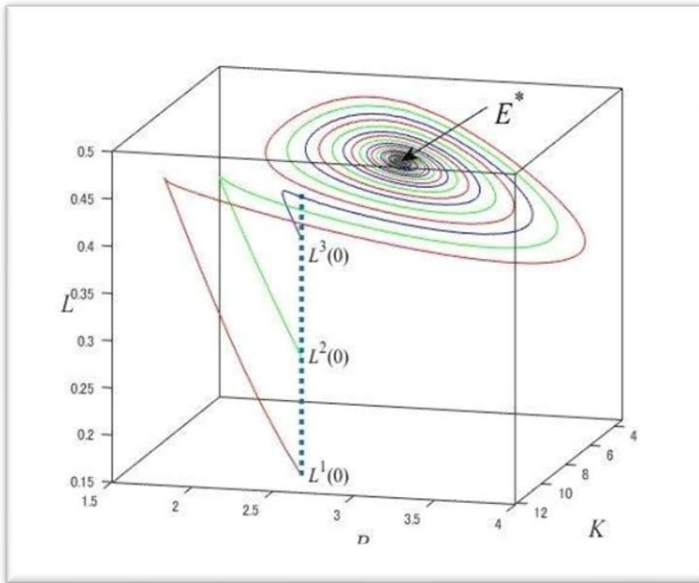
(6) 教員について(自己紹介等)

岩手県陸前高田市出身。博士（経済学、一橋大学、平成15年3月）。岩手→仙台→東京（国立）→仙台とわたり歩き、平成29年春から國學院に赴任しました。主専攻は動学マクロ経済学、副専攻は公共経済学です。理論だけでなく計量分析も行います。最近ではCOVID-19に関する研究に特に注力しています。執筆した論文や書籍を知りたい方は、ネットで氏名を検索するとすぐにいろいろ見つかります（元プロ野球選手の方に迷い込まないように（笑））。

好きなこと（もの）は、車の物色や運転、オフロードRCカー製作、昔のTVドラマ、盛岡じゃじゃ麺店・ラーメン店（家系等）・蕎麦店・居酒屋めぐり、小旅行（帰路が楽な所）、古書蒐集、（舌の上に稲妻が立つ）ビールを飲みつつ論文を書いたり、論文の点検をしたりすること。スポーツは何でも好きですが最近では全くです。減量目的でよく歩いていますし（並木橋～代官山～恵比寿～渋谷橋～大学のコースが定番）、筋トレもやっていますが効果は明瞭ではありません。

(7) その他

- 良識ある善良な市民を育成したいです。
- 胆力の備わった人間を育成したいです。
- 少し難しいかなというくらいの高い目標を掲げて努力を惜しまない人を応援します。
- 学年横断的で一体感のあるゼミを目指しています。



左の図は、最近私が関心を持って研究を進めている環境マクロ経済学において、著名な先行研究である Antoci et al. (2022, *European Economic Review*, Vol. 143, 104023) モデルの興味深い解軌道を数値解析によって再現したものです (ゼミの雰囲気を知る写真は学生作成の案内冊子をご覧ください)。

堀江 優希ゼミ

・選考で重視する項目

①ゼミへの意欲 ②面接の受け答え ※大学での成績は問いません

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--|-----------------|------|
| 経営分析 | | 会計入門 | 財務会計 |
| | | 企業財務 | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 3年(男) | 2人 | 3年(女) | 1人 | 4年(男) | 0人 | 4年(女) | 0人 |
|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ

会計・経営戦略・ファイナンスの視点から企業の「決算書」を読み解く

(2) キーワード

情報開示、財務会計、コーポレート・ファイナンス、簿記、経営戦略

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

本ゼミでは、企業の決算書を読み解くことで、企業が抱える問題を発見し解決策を提示する等、課題発見・問題解決能力を身につけます。さらにテキストの精読や発表・ディスカッションを通じて、論理的な思考力やプレゼンテーション能力を養成します。

【2 年次】

財務会計のテキストを精読し、その要約を発表する。経営戦略、コーポレート・ファイナンス

スについては、以下のテキストを元にしたレクチャーとディスカッションを予定しています。

◆使用予定テキスト ※テキストは、以下の財務会計のみ購入いただく予定です。

財務会計：桜井久勝（2026）『財務会計講義（第 27 版）』中央経済社

経営戦略：青島矢一・加藤俊彦（2012）『競争戦略論（第 2 版）』東洋経済新報社

コーポレート・ファイナンス：石野雄一『ざっくりわかるファイナンス』光文社新書

【3・4 年次】

好きな企業を 2 社選び、経営分析を行い発表する（個人またはグループ）。

◆過去の卒業論文のテーマ例：「〇〇社と△△社の経営分析」「〇〇（企業名）の現在の株価水準の妥当性を考える」「『経営上手なサッカークラブ』とは何か」等

※ゼミの時間外に、テキストの精読や経営分析のための、事前準備（グループワーク含む）が必要です。

令和 8 年度開講のゼミであるため、合宿などの課外活動についてはゼミ生で相談して自由に決めていく予定です。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）
特にありません。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

令和 8 年度に着任した為、本学での実績はありません。前任校では、金融機関への就職希望者が比較的多く、会計専門職（税理士等）の志望者も一定数おりました。卒業生は金融機関（信用金庫等）のほか、ディーラー、メーカー、税理士法人、会計専門職大学院など、幅広い業種・進路に就職・進学しています。ゼミでは会計や簿記の専門知識を身につけることができるため、会計の専門職（税理士・公認会計士）や公務員（国税専門官等）、経理（業界問わず）などへの就職を検討している人に向いています。

(6) 教員について（自己紹介等）

専門は、会計とコーポレートファイナンスで、情報開示に関する研究を行っています。最近の関心は、フェア・ディスクロージャー・ルールの役割・実態・影響や、経営者や証券アナリストが開示

する業績予想の役割・影響などです。授業では、よく「(先生が) 優しい」と言われます。人には優しいですが、ゼミに関しては決して易しいわけではなく、一定水準の成果が求められます。

(7) その他

会計・経営戦略・ファイナンスについての知識の有無は問いませんが、会計を専門とした職に就きたい等、目的意識の高い学生さんを特に歓迎します！

水無田 気流ゼミ

・選考で重視する項目

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|-------|-----------------|--------|
| ジェンダーと経済 | 身体文化論 | 経済と社会参加 | 社会科学入門 |
| | | | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|
| 3年（男） | 12人 | 3年（女） | 4人 | 4年（男） | 12人 | 4年（女） | 4人 |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ

私たちが日ごろ目にする衣服や建築等のデザインは、社会の身体観や人間観を表現しています。この演習では、「身体」を切り口に社会の「今・ここ」を検証します。一見個人的な出来事に見えることがらを社会構造と結びつけて考察する力を、C. W. ミルズは「社会学的想像力」と呼びました。本演習では、この社会学的想像力を身につけるために、現実の多様な事例を取り上げます。

たとえば、ファッション・建築・日用品等がいかにしてそのような美的な価値をもつに至ったのかやそれがいかに消費市場やマーケティングの対象となるのかの検討、スポーツ・ロボット・映像表現等身体技法や身体感覚についての先鋭的な事例研究、ゲームやアニメなどのサブカルチャーやメディアに見られる美的表現の解釈、身体観とジェンダーやセクシュアリティの関係、さらにバリアフリーやユニバーサルデザインといったデザインが提起する、「美しい」「健康的な」身体観のはらむ問題の再考などが、射程範囲となります。

「身体はすべての人間に共通したものである。人間の住んでいる社会的条件だけが変化する。そこで、人間の身体に基づく象徴は、さまざまな社会経験を表現するのに用いられるのだ」とは、文化人類学者メアリー・ダグラスの言葉です。このように身体とは、生理的・自然的な条件であるとともに、口

一カル文化特性や社会的側面を色濃く反映したものです。これらの検証を通じ、各自が多様な学問的興味・関心を見出し、今日の文化と社会の特性を研究することが、本演習の眼目となります。

(2) キーワード

メディア、ジェンダー、消費、身体文化社会学

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

1) 演習Ⅰ (2年後期)

・消費社会論や文化社会学についての基礎知識を身につける。教員による講義の後、その内容についてディベートを行い理解度を測る。

・テキスト読解に取り組む。各担当ページごとに報告者と座長を決め、報告と討議を行う。

2) 演習Ⅱ (3年生)

・アカデミック・ライティングの基礎を学び、その後ワークショップ形式のクリエイティブ・ライティングを行う。

・ゼミ論テーマを決定し、報告を行う(前半ショートバージョン、後期からはロングバージョンとなる)。ゼミ論報告ターンでは、報告者、討論者、座長を定め学会報告形式で報告を行う。年度末にゼミ論を提出。

3) 演習Ⅲ (4年生)

・ゼミ論をベースにした卒論内容を精査し、卒論の内容について報告を行う。報告形式は演習Ⅱと同じ。

・年度末に卒論を提出。

【参考：過去の卒論テーマ】

- ・「かわいい」の文化社会学的検討
- ・色彩固有感情が消費活動に及ぼす影響
- ・コロナ禍でのインフォデミックによる弊害~今後のインフォデミックへの対策~
- ・日本の空き家問題の検証
- ・「住みたいまち」を決める要素についての考察 ~機能性と情緒性~
- ・ジェンダーレスを服飾史から読み解く
- ・メディアのステレオタイプ表現が性別役割分業に与える影響についての一考察
- ・外見重視の社会がもたらす女性の美容投資への現状と課題
- ・家庭環境と機会格差の相関関係~社会参加と社会関係資本を軸に~
- ・スポーツにおけるジェンダー格差~女子ラグビー選手の現状から考える~
- ・渋谷再開発の文化的意義と持続可能性に向けての展望
- ・観光地の土地利用政策と外資規制の変遷と課題~ニセコ町自治基本条例の分析を軸に~

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細(枚数や時期など)

- ・演習Ⅰ:各自の研究テーマに沿ってレポート作成(3000字程度)。
- ・演習Ⅱ:各自の研究テーマに沿ってゼミ論文作成(12000~20000字程度)。

・演習Ⅲ・Ⅳ:各自の研究テーマに沿って卒業論文作成(20000~40000 字程度)。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

金融、IT、教育、専門商社、広告代理店、旅行代理店、公務員等

(6) 教員について(自己紹介等)

文化社会学・家族社会学・ジェンダー論等を専門とし、これまで多くの大学で教鞭を執り研究活動を行う傍ら、現代詩人として中原中也賞、晩翠賞といった賞を受賞し、社会評論や経済評論以外にも、文芸評論、美術評論、歴史評論、さらにはゲーム評論など多様なジャンルの執筆活動をしています。出身は神奈川県相模原市の国道16号線沿いで、ロードサイド型の大型ショッピングセンターが建ち並ぶ現在の「日本の郊外」の走りのようなところで育ちました。チェーン店の居並ぶ均質化された風景を見て育ったためか、異なる文化集団や風土性に関心が高まり、学部生のころはバックパッカーをやって、世界中をふらふら歩き回っていました。役立つと思わずやってきたことがほぼ軒並み評論の対象になってしまい、純粋な趣味を失いつつある今日このごろです。私は長年文章で食べてきたため、諸君には最低限、文章を読み書きする技能だけはしっかり指導させていただきたいと思っています。

(7) その他

今日の社会は、グローバル化が進展する中での地産地消など「ローカル」文化の再評価や、「ファスト」な消費市場が席卷する中でエシカル消費・ソーシャル消費など社会的意識の高まり、メディアの進展により変容する「身体」へのまなざし、家族やジェンダー規範の保守化と同時進行するLGBT市場への期待など、一見矛盾する事態までもが並置されています。その負の側面も含め、高速で変化して行く現代社会の様態を読み解くために、「文化」は大きな手がかりになります。それは公正さだけでは解消し得ない、人々の望ましさや欲望にも根ざしています。これらを学ぶことは、今日の社会を読み解く大きな武器になると考えておりますので、積極的な参加を歓迎いたします。



宮下 雄治ゼミ

・選考で重視する項目

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| × | × | × | × | × |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--------|----------------------|--------------------|
| 経営入門 | 基礎演習 B | ビジネスゲーム（経営学 科） | ビジネスデザイン（経営学 科） |
| | | マーケティングの基礎 （経営学科） | 政策デザイン（経済学科） |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|
| 3年（男） | 12人 | 3年（女） | 14人 | 4年（男） | 12人 | 4年（女） | 13人 |
|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|

・教員からの説明

(1) テーマ

「マーケティングと消費者心理」

いつの時代も世の中の変化やトレンドを味方につけたマーケティングが新たな商機を生み出します。宮下ゼミでは、マーケティングの伝統的な理論からAI・デジタルを駆使した新時代におけるマーケティングを研究するとともに、購買行動・リピート・顧客満足・ブランド選択といった消費者の心理や感情のメカニズムについての理解を深めます。

(2) キーワード

消費者心理・行動、消費分析、デジタル経済、広告、店舗デザイン、顧客満足、市場調査

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

・マーケティングの理論と実務を並行して学ぶ（インプット）とともに、学んだ内容を個人とグループ単位でアウトプットする機会を設けています。ここ数年は、学外のビジネスコンテストに全員が参加するとともに、広告コンテスト（キャッチコピーとCM）に参加しました。令和6年度は2つの外部コンテストに参加し、両コンテストともに複数チームが予選突破し、表彰されました。

・3年次は、マーケティング・消費情報に特化した新聞「日経 MJ（マーケティングジャーナル）」を全員が購読し、毎回の授業で発表・共有し、消費の最先端や企業動向を学びます（同新聞は週3日発行で月額2,800円）

・3年次は全員が「マーケティング検定」を受験します（上級資格2級の合格者も毎年います）。全員がマーケティング検定の取得を目指すとともに、専門紙の購読を通して最新のマーケティング事例を学びます。

・合宿はここ数年は行っていません

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

- ・各自が一つの企業（店舗）を選び、店舗視察を通じた調査結果を発表・フィードバック
- ・各自がビジネスプランを立案し、全体に発表・フィードバック

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

ここ数年の卒業生の主な就職先は、アクセンチュア、デロイトトーマス、カルビー、王子製紙、東京ディズニーランドホテル、テレビ朝日サービス、電通東日本、Hakuhodo DY ONE、TOPPAN、星野リゾート、全日本空輸、富士通、沖電気、カシオ計算機、プリンスホテル、三菱食品、伊藤忠食品、国分、三井食品、伊藤忠テクノソリューションズ、富士ソフト、JA農協、中央物産、大成建設、東急建設、東海旅客鉄道（JR 東海）、セブン-イレブン・ジャパン、ファミリーマート、ローソン、イトーヨーカ堂、イオン、そごう・西武、マイナビ、住友林業、パナソニックコンシューマーマーケティング、サントリーマーケティング&コマース、京王プラザホテル、タリーズコーヒージャパン、パルタック、みずほ銀行、長野銀行、日本郵便、群馬県庁、越谷市役所、東京消防庁などとても幅広いです。

(6) 教員について(自己紹介等)

約10年間、広告会社と流通のシンクタンクでマーケティング実務に携わり、消費財メーカーのプロモーション立案と効果分析を仕事としてきました。

(7) その他

時間をかけなければ見えないこと、わからないこと、身につかないことがあります。ゼミ活動の毎回の積み重ねが力になりますので、ゼミには休まずに目標と向上心を持ち続けることができる方の応募をお待ちしています（短距離よりも長距離ランナーを求めます）。



山本 健太ゼミ

- ・選考で重視する項目

大学生として基本的な文章を書けるか

- ・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ スプセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ スプセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | | | |

- ・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|--|-----------------|--|
| | | | |
| | | | |

- ・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 3年(男) | 1人 | 3年(女) | 3人 | 4年(男) | 3人 | 4年(女) | 3人 |
|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|

- ・教員からの説明

(1) テーマ

経済活動を「地域」という空間的枠組みの中で考える。

(2) キーワード

経済地理学、フィールドワーク、地域

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

論文の輪読による基礎的な思考法や手法の習得と、個人テーマに沿ったフィールドワークと報告書の作成を想定しています。

(4) 卒業論文以外で、論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

2年次に論文踏査を始め、3年次には当該分野の研究動向についてレビュー報告（4000字程度）を作成する。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

自治体職員、自衛隊、鉄道、建材、アパレル、保険会社、不動産関係など。対面接触のほか、輸送関係や地方を好む傾向にあります。テレビ番組制作、ゲーム制作などのクリエイティブ系に就職したものもいます。

(6) 教員について(自己紹介等)

山本健太 検索

(7) その他

ゼミとは、単に勉強するところではなく、社会関係も学ぶ場であると考えています。このゼミに入るということは、私に弟子入りすることだと思ってください。

バイト、部活、サークルはゼミ欠席理由として認められません。ゼミでの活動を最優先事項として、他のゼミ生と協調し、積極的に参加してください。

全員、毎週その週にしたことを事前にメールで報告した後、ゼミで発表します。非常にまじめで緊張感のあるゼミです。ゼミ中に無駄話は一切ありません。文章を書く力がつきます。基本的に個人での活動になります。

吉野 真治ゼミ

・選考で重視する項目

以下の①～④に基づき選考します。

- ① GPA
- ② 修得単位数
- ③ 課題の内容
- ④面接時の回答内容

・サマーセッション・スプリングセッションの実施予定

| 演習Ⅰ サマセ | 演習Ⅰ サブセ | 演習Ⅱ サマセ | 演習Ⅱ サブセ | 演習Ⅲ サマセ |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | ○ | | |

・指定科目（未開講の場合は入ゼミ後に履修）

| ゼミ指定必須科目 | | 履修しておくことが望ましい科目 | |
|----------|------|-----------------|------|
| 会計入門 | 財務会計 | 応用財務会計 | 国際会計 |
| 簿記の基礎 | | 財務諸表分析 | |

・現在のゼミ生数

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|-----|-------|----|-------|----|
| 3年(男) | 6人 | 3年(女) | 10人 | 4年(男) | 4人 | 4年(女) | 0人 |
|-------|----|-------|-----|-------|----|-------|----|

・教員からの説明

(1) テーマ

企業会計のルールとその基礎にある考え方について学びます。特に、会計というツールを用いて一連の企業活動を追体験することをつうじて、ビジネスに関する知識や思考力を養ってほしいと思います。

(2) キーワード

財務会計、国際会計、ディスクロージャー

(3) ゼミの進め方(合宿など正課授業以外を含む)

2年後期～3年前期は、財務会計の基本書を輪読し、会計に関する基礎知識とディスカッションスキルを修得します。具体的には、ゼミ生が担当章の報告を行い、実務上の論点や国際会計基準との主要な差異に関するディスカッションを行います。3年後期は、ゼミ成果発表や他大学とのインターゼミに向けたグループワークを中心に活動します。また、履修者毎に興味を持った論点（例えば、組織再編会計、リース会計、金融商品会計など）について、専門書や学術論文を参照しながら報告し、教員からのフィードバックを行います。4年次は、卒業論文の執筆および報告を行います。

なお、サマーセッションとして、ゼミ合宿と学内ゼミを実施する予定です。

(4) 演習Ⅳ以外で論文などを課す場合の詳細（枚数や時期など）

他大学との合同ゼミの実施を予定しており、報告用のグループ論文を執筆します。

(5) 先輩たちの主な就職先と傾向

開講2年目のため、就職に関するデータはありませんが、ゼミで修得したスキルを活用して、財務・会計に関する職種に限らず、自身の興味のある業種に就職してほしいと考えています。

(6) 教員について(自己紹介等)

令和7年度4月に國學院大學に着任しました。教職に就く前は、公認会計士として財務諸表監査やコンサルティング等の業務に従事していました。趣味は釣りとスノーボードですが、最近では子供が在籍する少年サッカーチームの指導で休日の予定が埋まってしまい、なかなか海にも山にも行きません。

(7) その他

公認会計士試験や税理士試験等の国家試験の合格を目指す学生は、個別にアドバイスをいたしますので、気軽に相談してください。

